

佐賀歴史ものがたり街道(仮称)

基本方針(案)

平成21年3月

国土交通省 九州地方整備局
国営吉野ヶ里歴史公園事務所

はじめに	1
1. 佐賀歴史ものがたり街道（仮称）の基本コンセプト	2
■検討対象地域	2
■基本コンセプト	3
2. 対象地域の概要	4
■地勢・観光動向	4
■地域の歴史概況	4
■歴史的・文化的資源の分布	5
3. 佐賀歴史ものがたり街道（仮称）のテーマ	6
■キャッチフレーズ	6
■テーマとキーワード	7
4. 佐賀歴史ものがたり街道（仮称）の推進に向けて	8
■施策展開の基本的な考え方（案）	8
■推進に向けた体制と役割分担（案）	9
■想定される施策メニュー（案）	10
■実現化に向けた課題と今後の進め方（案）	12
巻末資料	13
1. 地勢・観光動向データ	13
2. 5つのテーマの概要検討資料	15
3. 活用が想定される補助事業等	27
4. 基本方針（案）の検討体制と検討の経緯	28
■検討の経緯	
■検討体制	

はじめに

福岡県南部から続く筑紫平野の西半分を占める佐賀平野は、北に背振山地、南に有明海を臨むという地理的一体性をもつ地域となっています。

この地域は、筑後川や嘉瀬川などが運ぶ土砂によって、肥沃な平野が形成されたことから、古くは縄文時代から集落がつくられ、古代から中世、近世、現代に至るまで、どの時代においても地域の中心地として発展を続けてきました。

そのため、佐賀平野は吉野ヶ里遺跡をはじめとした古代遺跡や幕末維新ゆかりの地、クリークなどの地理的特徴を活かした観光地など、多くの特色ある歴史的・文化的資源に恵まれています。また、あまりその魅力が知られていないのが現状です。

しかし、これまで吉野ヶ里歴史公園で実施した来訪者アンケート調査では、公園周辺の一般にはあまり知られていない歴史的・文化的資源にも行ってみたいという意見が多く寄せられており、地域が有する貴重な資源を幅広く PR し、活用していくことが望まれています。

また一方では、平成 20 年度の観光庁発足などに見られるとおり、「21 世紀のリーディング産業」としての観光に対する期待は大きな高まりを見せており、地域の活性化を図っていくためには、地域にある資源を有効に活用して「交流人口」の増加を図っていくことが大きな鍵となってきています。

こうした中、地域の特性や貴重な歴史的・文化的資源を活かして、活力ある地域づくりを効果的・効率的に進めるためには、地域活動団体や企業、行政等の様々な主体がそれぞれ個別に取り組みを進めるのではなく、課題認識や方向性を共有し、相互に補完・連携しながら、市町の行政区域の枠を超えた広域的な視点で取り組みを進めることで、地域全体として相乗効果を高めていく必要があります。

国営吉野ヶ里歴史公園は、年間 60 万人以上が訪れる全国的でも有名な観光地となっており、また、「広域観光レクリエーションネットワークの拠点としての役割を担い、まちづくりの核として、地域の活性化など地域に寄与する公園」を公園整備の基本方針の一つとして掲げています。この基本方針のもと、まずは吉野ヶ里歴史公園を一つの核とした地域全体の活性化の「きっかけ」づくりとなることを期待し、地域の歴史的・文化的資源をつなぐことで相乗的に地域全体の魅力を高めることを目指す「佐賀歴史ものがたり街道（仮称）」の検討を進めています。

このたび、その最初の取り組みとして、歴史や自然などの地域の特徴を表すテーマや今後の進め方などを整理した「佐賀歴史ものがたり街道（仮称）」基本方針（案）をとりまとめました。

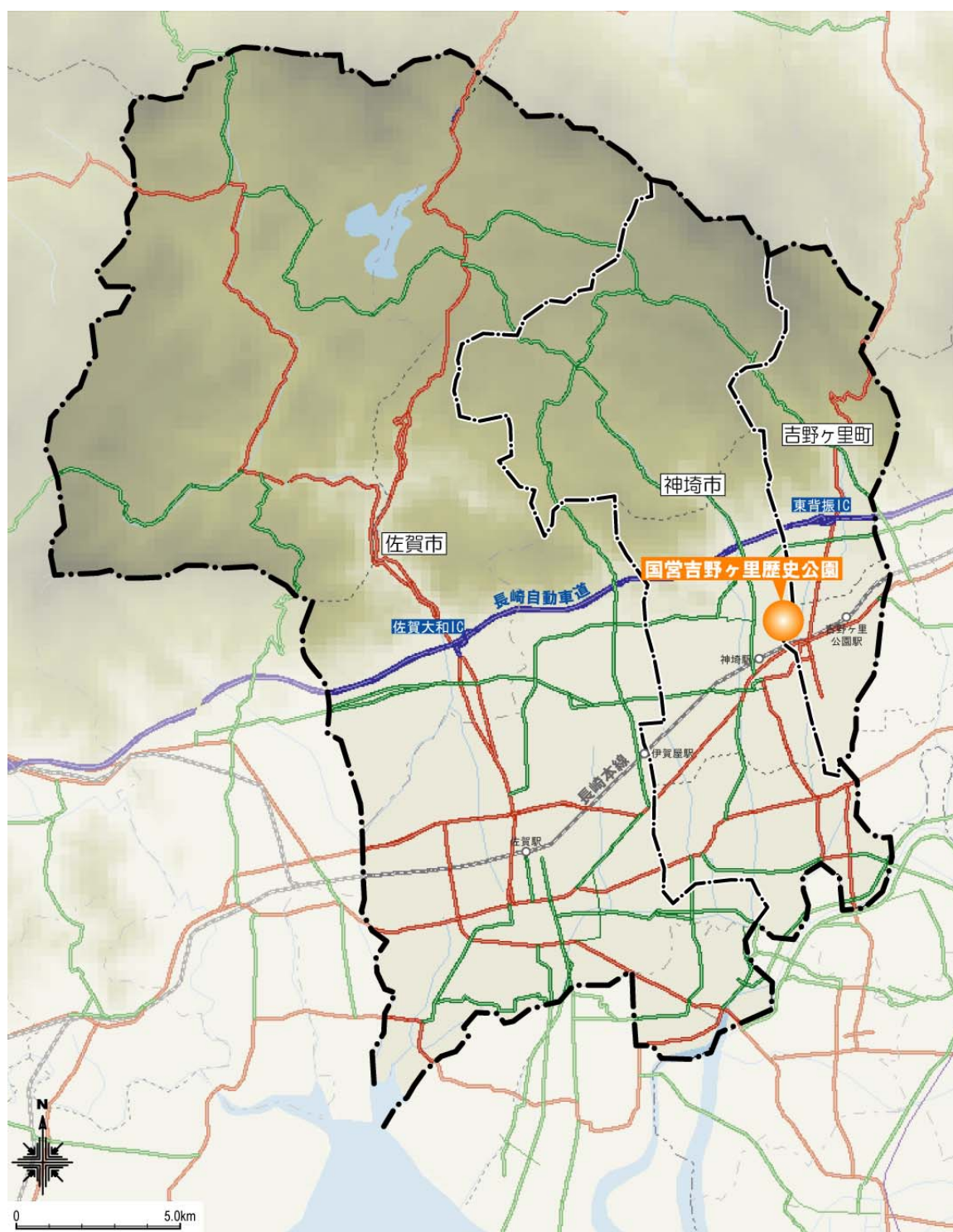
なお、本基本方針（案）は、あくまでも地域づくりの方向性を一つのイメージとしてご提案するものであり、今後、地域の方々が主体となって検討を重ねていく際の「たたき台」としてご活用いただければ幸いです。

1 佐賀歴史ものがたり街道（仮称）の基本コンセプト

■ 対象地域

本基本方針（案）は、原始から現代に至るまで、地域の中心舞台となった、国営吉野ヶ里歴史公園周辺の地域を対象とし、まずは公園を核とする佐賀市・神崎市・吉野ヶ里町の2市1町の範囲を“一体のエリア”として捉えて対象地域に設定しています。

▼対象地域



■ 基本コンセプト

広域的な地域の活性化に向けては、来訪者の長時間滞在ならびに満足度の向上を図ることが重要であると考えられます。

そのためには、地域の特性を踏まえつつ、地域の歴史的・文化的資源を洗い出し、個々の資源の魅力向上を図ることに加えて、特色ある地域資源をネットワーク化することで相乗的に地域全体の一体的なエリアとしての魅力向上を図っていくことが必要となります。

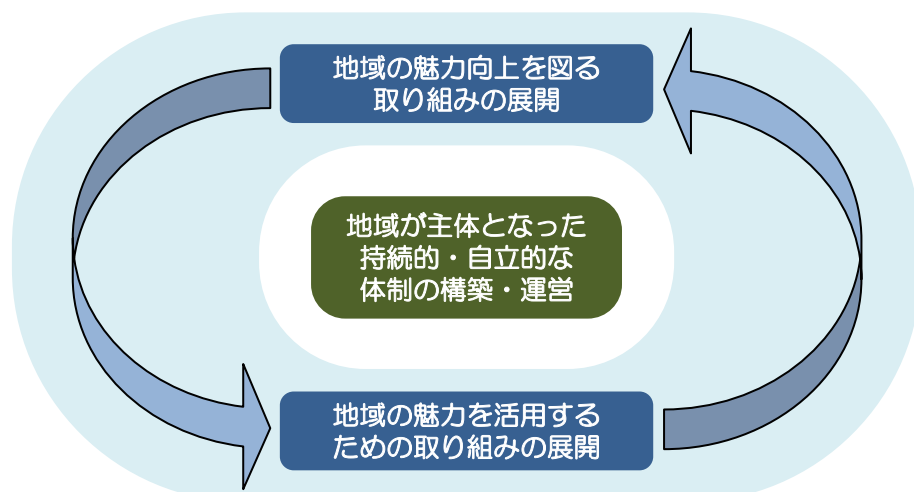
また、一方では、ただ単に資源やエリアの魅力向上を図っていくだけでは十分ではなく、そうした魅力をどのように活用していくかを考えることも必要です。

さらに、地域の活性化を考えるにあたっては、取り組みを一過性のものとしないように、長期的な視点に立って進めていくことが求められます。そのためには、地域が自らの手で、それぞれの地域に固有の資源や独特な発想・アイデアを駆使して独自の取り組みを展開し、持続的・自立的な活性化を実現していくことが重要になります。

すでに、対象の2市1町では、長崎街道やお茶などの地域の歴史的な資源を活かした取り組みが行われていますが、今後、継続的にさらなる魅力向上を図っていくためには、このような各地で行われているさまざまな取り組みが地域内で有機的に繋がり、持続的かつ相乗的に発展していくことを目指す必要があります。

そこで、「佐賀歴史ものがたり街道（仮称）」基本方針（案）では、地域が有する個々の既存資源を磨き、連携・ネットワーク化することで「地域の魅力を向上」させること、「地域の魅力を活用」し地域の活性化につなげていくことに加え、行政と地域が地域の魅力活用ならびに向上に向けて協働しつつ、それぞれの立場で役割に応じた取り組みを地域全体で持続的・自立的に進めていくための地域づくりを基本コンセプトとして、その方向性を提案します。

▼基本コンセプト概念図



地勢・観光動向

対象地域が位置する佐賀平野は、北は脊振連峰を境として福岡県に接し、南は日本一の干満の差をもつ有明海、東は九州一の大河である筑後川に囲まれています。この地域は河川の搬出土砂が有明海の潮汐の作用と相まって形成されたため、極めて低平でクレークが多くみられます。そのため、古代から盛んに開墾が行われ、広大な稲作地帯を形成してきました。

全国的に有名な観光地となっている国営吉野ヶ里歴史公園や九年庵には、九州内外から多くの観光客が訪れますが、地域内を周遊する割合が低いことなどから、観光消費額は伸び悩んでおり、神崎市で 580 円/人、吉野ヶ里町 716 円/人と非常に低い水準にとどまっています。

注) 佐賀市は県庁所在地でもあり、ビジネス等による滞在客も見られるため 3,580 円/人と県平均 (3,282 円/人) を若干上回っています。[観光消費額はいずれも「平成 19 年佐賀県観光客動態調査」より]

地域の歴史概況

原始 ◆ 旧石器
縄文
弥生

弥生時代から古墳時代にかけての環濠集落跡や古墳など様々な遺跡が残されている。特に吉野ヶ里遺跡は弥生文化を示す日本有数の遺跡。

関連資源》吉野ヶ里遺跡、徐福長寿館など



吉野ヶ里遺跡

古代 ◆ 古墳

地方豪族による地方統治体制が形成、大規模な古墳が数多く築造された。

関連資源》銚子塚古墳、西隈古墳、丸山遺跡など



丸山遺跡

奈良

大和朝廷による律令国家形成にもなって肥前国が成立し、国府や国分寺、駅路などが整備された。

関連資源》肥前国庁跡、日の隈公園など

平安

皇室や社寺が所領する荘園が形成され、肥前国最大の院領荘園「神埼荘」ができた。荘官の平家は密末貿易により繁栄の貴重な財源を得た。

関連資源》櫛田宮、白髭神社の田楽など



櫛田宮

中世 ◆ 鎌倉
室町

武士による対立抗争がつづき、クレークを活かした城館などが形成された。

関連資源》東妙寺、筑前街道など

近世 ◆ 安土桃山
江戸

利水事業等により豊かな農地が形成されるとともに、九州第一の幹線道路であった長崎街道を通じた様々な文化が伝達された。

関連資源》石井樋、ひのはしら一里塚など



ひのはしら一里塚

厳しい教育などにより、幕末の困難な時期に佐賀七賢人をはじめとした数多くの優秀な人材が輩出された。

関連資源》大隈重信旧宅、佐野常民記念館など



佐野常民記念館

近代
現代 ◆ 明治
大正
昭和
平成

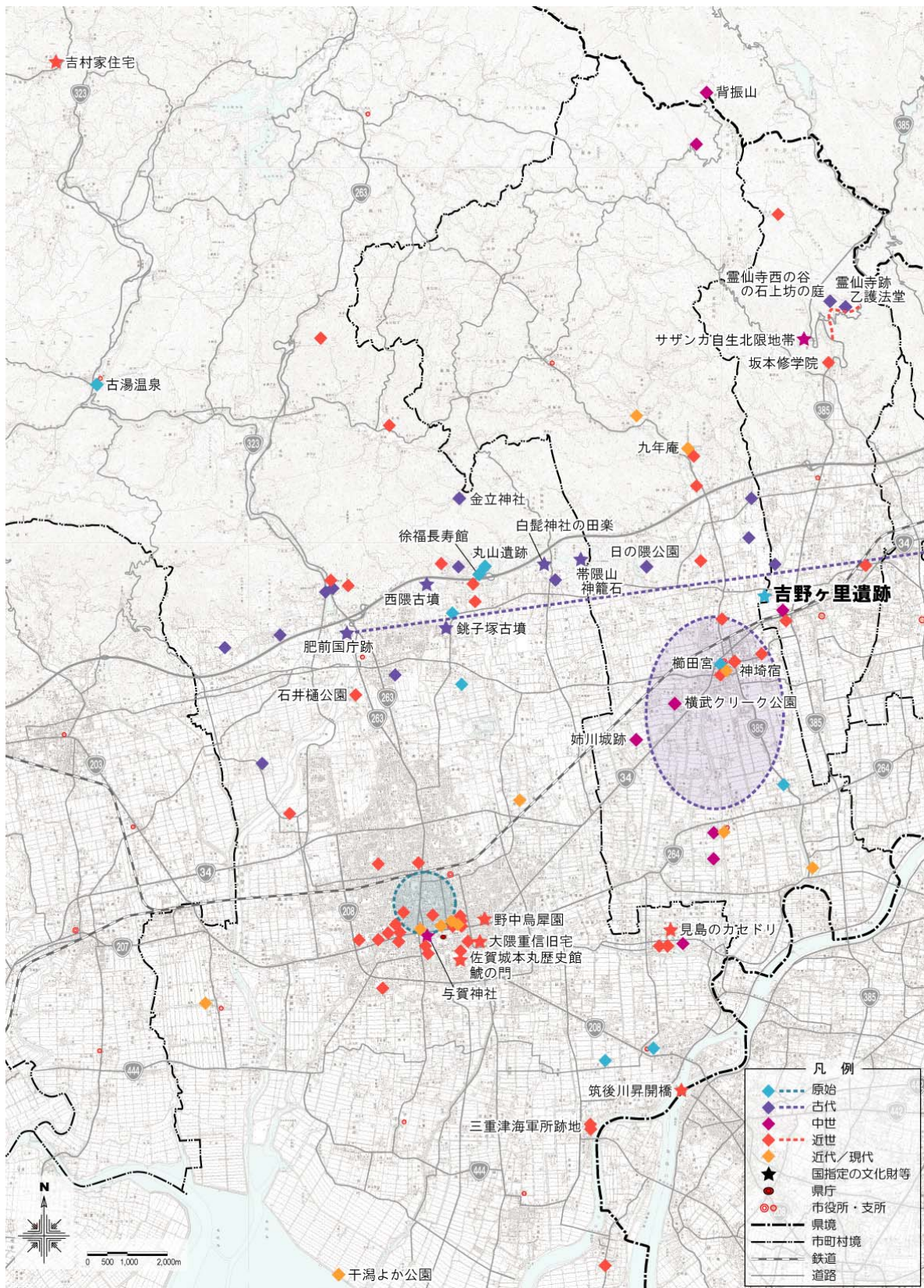
明治新政府に出仕した佐賀藩士は様々な分野で著しい活躍を見せ、新国家の確立に尽力した。また近代化も進み、東洋一の昇開橋なども建設された。

関連資源》鯨の門、筑後川昇開橋など



筑後川昇開橋

対象地域には、各時代のさまざまな歴史的・文化的資源が幅広く分布しています。また、国指定の文化財などの歴史的な価値の高い資源も多く見られます。

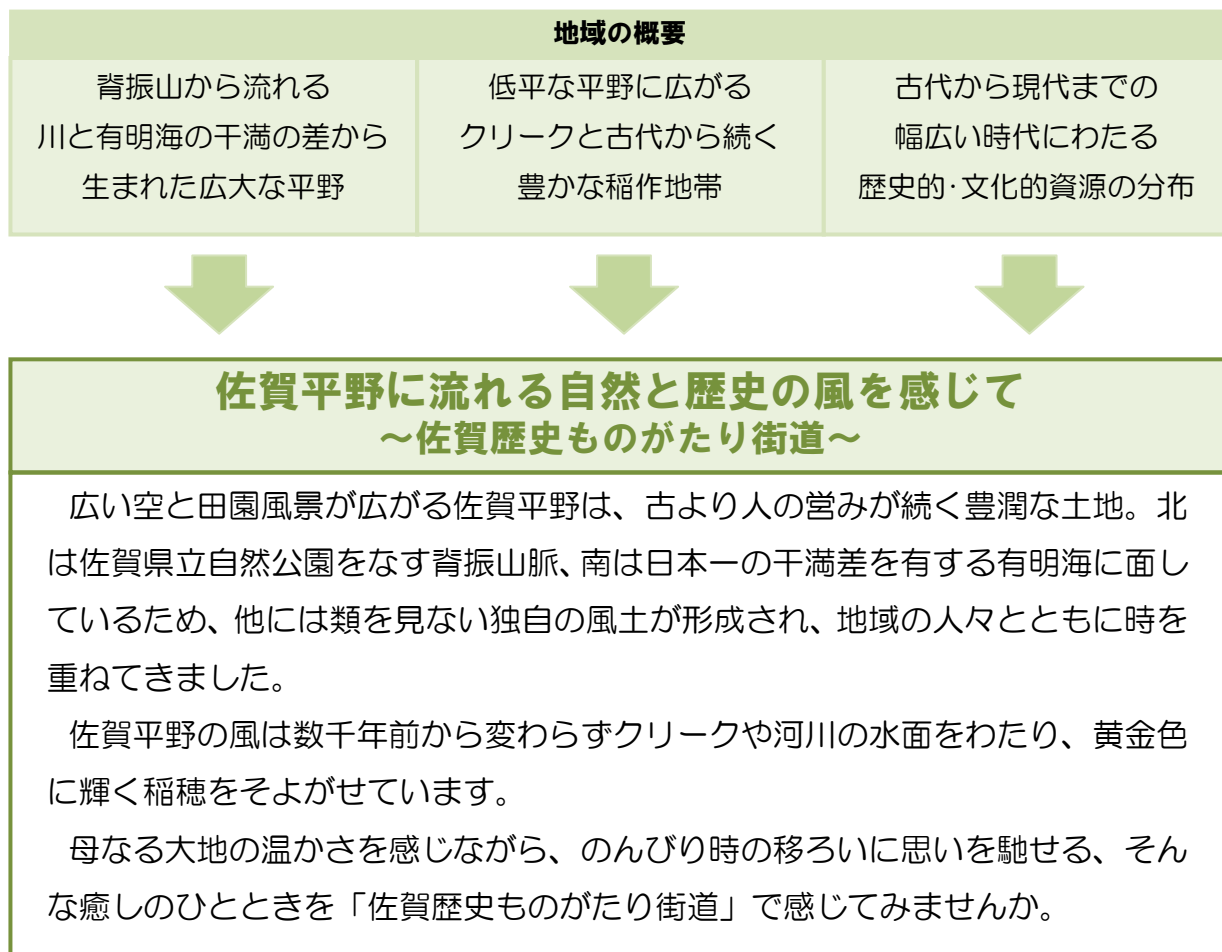


対象地域の一体的なエリアとしてのイメージを形づくり、共有化していくことを念頭に、歴史や自然などといった地域の特徴を表す「キャッチフレーズ」を設定しています。

また、地域の多様な歴史的・文化的資源の連携・ネットワーク化を検討していく上での「切り口」として、地域の歴史や地域が有する資源の特徴などを踏まえて、『5つのテーマ』と『2つの共通キーワード』を設定しました。

5つのテーマそれぞれの概要については巻末資料にお示ししています。

■ キャッチフレーズ



1 古代日本文化のあけぼの 平原光沢に伝わる遺跡群と徐福伝説



吉野ヶ里遺跡



丸山遺跡



徐福長寿館

2 時の権力者を魅了する 黄金色にきらめく豊熟の佐賀平野



櫛田宮



直島城跡



肥前国庁

3 湧き上がる思いに導かれて 近代日本の礎をつくった長崎街道と佐賀の俊英



九年庵



大隈重信旧宅



佐賀城本丸歴史館

4 オンリーワンの水の郷 悠久の恵みをもたらす川と平野と有明海



石井槌公園



筑後川昇開橋



干潟よか公園

5 喫茶文化のはじまり 日本茶文化でなごみのひととき



霊仙寺乙護法堂



サザンカ自生北限地



坂本修学院

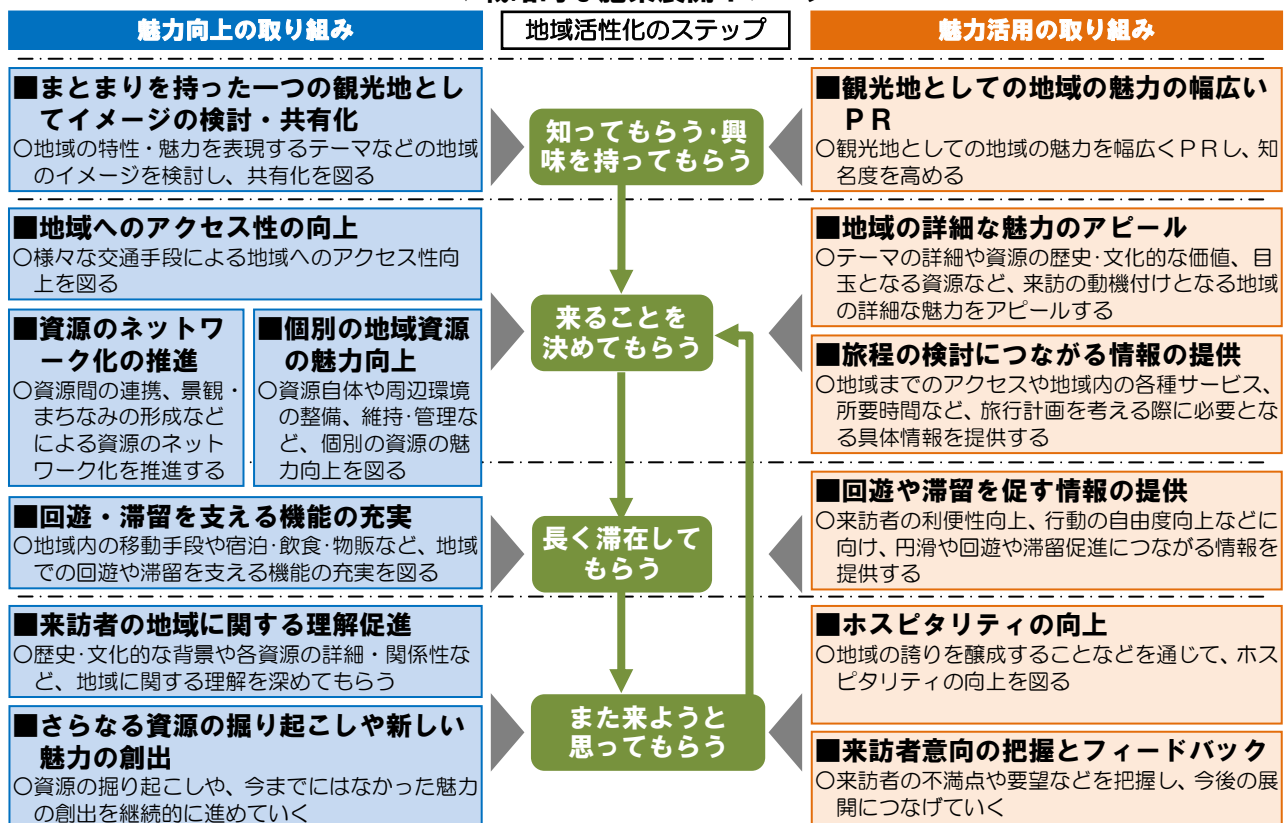
施策展開の基本的な考え方（案）

歴史的・文化的資源を有効に活用して地域の活性化を図っていくためには、「地域を知ってもらう・興味を持ってもらう」「地域に来ることを決めてもらう」「地域に長く滞在してもらう」「また来たいと思ってもらう」といったステップで来訪者の増加や滞在時間の延長を継続的に図っていく必要があると考えられます。

また一方では、基本コンセプトにお示したとおり、『地域の魅力の向上』と『地域の魅力の活用』の両面からの取り組みを進めていくことも重要です。

このようなことから、佐賀歴史ものがたり街道（仮称）では、以下に示すような流れでさまざまな施策を戦略的に展開していくことが期待されます。

▼戦略的な施策展開イメージ



▼詳細な現状把握項目（案）

なお、具体的な施策内容等の検討にあたっては、地域が有する資源の整備・管理状況やアクセス道路等の状況、さらには地域内の関連施設等の状況や情報提供の現状などについて詳細に把握する必要があります。

また、持続的な取り組みを進めていくための組織体制の構築についても、あわせて検討していくことが重要であると考えられます。

個別資源および関連設備等の状況	- 資源の整備状況や管理状況（管理者、管理の概要） - トイレの有無、状況 - 資源に対する説明板等の有無、状況 - 利用料金等の状況 - 駐車場の有無、状況 など
来訪・周遊に必要な交通施設等の状況	- 主要ルート、アクセス道路等の状況 - 案内誘導（案内板等）の状況 - 公共交通機関等の状況 など
周遊・滞在を支える施設等の状況	- 飲食店（特に郷土料理等）の状況 - 物販店（地域特産品等）の状況 - 宿泊施設、温泉施設等の状況 - 休憩施設（道の駅等）の状況 など
その他	- イベント等の実施状況 - 観光案内所、観光ガイド等の状況 - 地域や個別資源に関する情報提供の実施状況など

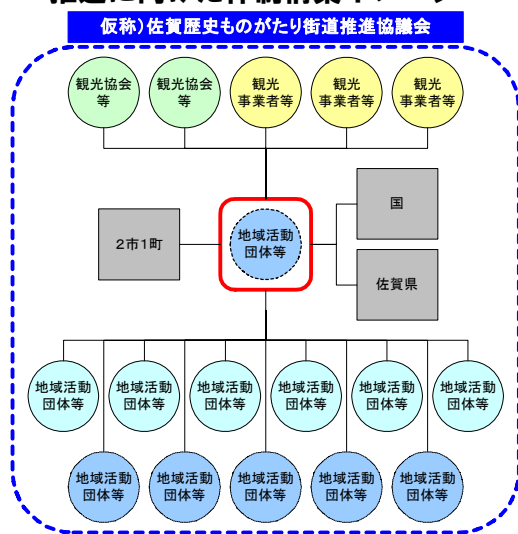
■ 推進に向けた体制と役割分担（案）

地域の活性化に向けた施策を戦略的に展開していくためには、地域が主体となって持続的・自立的に取り組むを進めていく必要があります、そのために必要となる組織体制を構築・運営していくことが重要だと考えられます。このため、将来的には、行政（国・県・市町）はもとより、観光協会、観光事業者、関連する地域団体等、地域の観光に関わる皆さんからなる「（仮称）佐賀歴史ものがたり街道推進協議会」を設立し、核となる地域活動団体を中心として役割を分担しつつ、地域が一丸となって取り組むを進めていくことが望まれます。

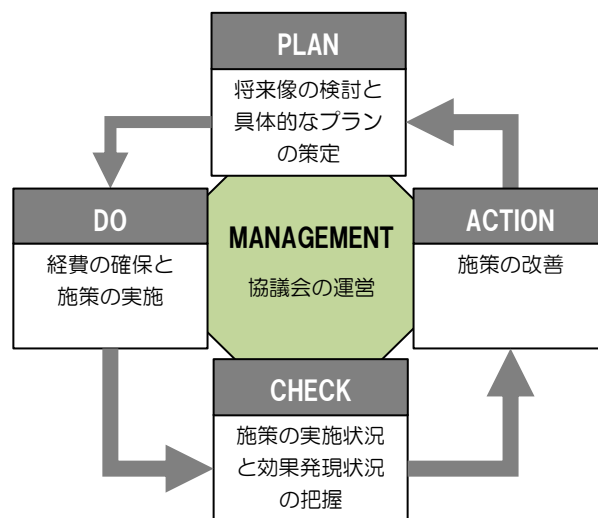
また、地域の魅力の「陳腐化」を防ぎ、持続的な活性化を推進していくためには、協議会が主体となって、**Plan**（計画）・**Do**（実践）・**Check**（確認）・**Action**（改善）といったサイクルで継続的に取り組みを行っていく必要があると考えられます。

将来的な協議会組織の構築に向け、まずは具体的な活動の開始に向けた会合等を積み重ね、地域づくりの方向性や課題等の共有を進めていくことが大切です。

▼佐賀歴史ものがたり街道（仮称）の推進に向けた体制構築イメージ



▼協議会を主体とした継続的な取り組みサイクルのイメージ



▼役割分担イメージ

		地域活動団体等		観光事業者等	観光協会等	行政	
		核となる組織	その他の組織			市町	国・県
PLAN	地域の将来像を描く						
	将来像の実現に向けた具体的なプランをつくる						
DO	活動に必要な経費を確保する						
	具体的なプランに基づいた施策を行う		地域の魅力を向上させる				
			地域の魅力を活用する				
			地域の理解・協力を得る				
CHECK	施策が適切に行われているか確認する						
	地域に施策による効果が出ているか把握する						
ACTION	CHECKの結果に応じて施策を改善する						
MANAGEMENT	PDCAサイクルを実施する協議会を運営する						

※ ■：主体的な役割を果たす

■：主体的な役割を果たす団体をサポートする

■ 想定される施策メニュー（案）

魅力『向上』の取り組み		
	施策メニュー（案）	施策の概要
まとまりを持った一つの観光地としてイメージの検討・共有化	2市1町のキャッチフレーズと作成とPR	○2市1町が一体的なエリアとして認識され、地域の特徴をイメージしてもらえるようなキャッチフレーズを作成する。
	2市1町のイメージキャラクターの作成とPR	○2市1町が一体的なエリアとして認識され、定着するような共通イメージキャラクターを作成する。
地域へのアクセス性の向上	交通機関別の地域内サービスプランの作成	○有料道路の領収書や公共交通のチケット等の提示で施設の入場割引や商品の購入割引などの特典が得られるサービスプランをつくる。
	九州新幹線利用者のアクセス手段の調査および設定	○九州新幹線利用観光客が2市1町へ気軽に訪れることができるような交通サービスを現状の調査を行った上で確保する。
資源のネットワーク化の推進	2市1町の観光案内ルートの開発	○観光客のニーズ（ターゲット）を想定した、地域内の魅力を伝える2市1町を周遊する案内ルートを設定する。
	2市1町の景観に関する基準等の策定	○今後の2市1町の景観形成における共通認識を持ち、開発等を実施する際の基準等を策定する。
	2市1町と連携する地域との広域観光コースの開発	○2市1町における観光の特徴を整理し、2市1町周辺の主要観光地との連携のあり方や方策を検討・実践する。
個別の地域資源の魅力向上	資源の景観の整備	○資源の景観整備状況を現地にて点検調査し、状態や来訪者数などから決定する優先度に基づいて、順次整備を行う。
	資源の利用環境の整備	○資源の利用環境整備状況を現地にて点検調査し、状態や来訪者数などから決定する優先度に基づいて、順次整備を行う。
	複数の資源の共同開催イベントの実施	○2市1町の複数の資源で、季節感や地域性を感じる共通テーマを設けたイベントを同時に開催し、周遊、再訪を促す。
	地域でしか経験できない体験型観光の開発	○2市1町における体験型観光サービスの提供状況を調査し、地域ならではの体験ができるメニューを整備、開発する。
回遊・滞留を支える機能の充実	団体客、個人客に対応したご当地メニューが楽しめる飲食店の設置	○2市1町のご当地メニューを団体客や、個人客が訪問し、ゆったりと休憩できるような店を設置する。
	団体客、個人客に対応した地域ならではの品が購入できる店舗の設置	○2市1町ならではの特産品などを団体客や個人客がお得感を感じて土産を購入できるような店を設置する。
	団体客、個人客に対応した休憩スポットの設置	○観光客がドライブ中にトイレなどに立ち寄れるような休憩スポットを幹線道路沿いに設置する。
	旅行会社と公共交通が連携して発行する乗車チケットの導入	○タクシーや路線バスなどの回数券や乗り放題券などの乗車チケットをつくり、旅行会社などを通じて販売する。
	アクセス道路の整備	○資源へ訪れるルートを設定し、そのアクセス性を確保するための道路整備を行う。
	道路案内標識の設置	○資源へ訪れるルートを設定し、アクセス道路への誘導、アクセス道路から資源への誘導を行う道路案内標識を設置する。
	資源までの行き方（所要時間やルート）の案内看板の設置	○資源へ訪れるルートを設定し、その交通手段やルート、所要時間が記載された案内看板を駅や休憩場所などに設置する。
来訪者の地域に関する理解の促進	ボランティアガイドの育成	○資源について歴史的背景やエピソードなどを交えながら現地を案内するボランティアガイドを育成する。
	ボランティアガイド紹介窓口の設置	○地域内で活動するボランティアガイドを来訪者や観光事業者に対して紹介する問い合わせ窓口を設置する。
さらなる資源の掘り起こしや新しい魅力の創出	観光客のニーズにあった地域独自の商品の開発	○観光客の購買ニーズを調査・検討し、2市1町に来訪したことが思い出となるような地域を活かした土産品を開発する。
	2市1町のブランド商品の設定	○既存の工芸品等を活かしながら、手軽に購入できる2市1町ブランドを設定する。

魅力『活用』の取り組み

	施策メニュー（案）	施策の概要
観光地としての地域の魅力の幅広いPR	新聞、テレビ、雑誌に対する魅力や取り組み内容の売り込み	○2市1町にある観光的な魅力のポイントを新聞やテレビ、雑誌などのメディアに対して関心を引くような情報発信を行う。
	旅行会社に対する観光商品の売り込み	○2市1町にある観光的な魅力のポイントを旅行会社に対して関心を引くような情報発信を行う。
地域の詳細な魅力のアピール	紙媒体を使った2市1町の観光案内ガイドによる地域資源の魅力情報の発信	○2市1町のエリアを一体的に扱った紙媒体による観光案内ガイドを作成し、2市1町の見どころポイントを紹介する写真や記事を観光客のニーズに合わせたカテゴリーに分けて掲載する。
	インターネットを使った2市1町の観光案内ガイドによる地域資源の魅力情報の発信	○2市1町のエリアを一体的に扱ったインターネットによる観光案内ガイドを作成し、2市1町の見どころポイントを紹介する写真や記事を観光客のニーズに合わせたカテゴリーに分けて掲載する。
	インターネット上のブログなどによる地域の声を入れた旬情報の発信	○インターネットのブログなどを活用して、2市1町の季節情報や最新情報などをできるだけリアルタイムで紹介する情報を定期的に発信する。
	定期刊行物の連載記事などによる地域の声を入れた旬情報の発信	○市町報や雑誌などを活用して、定期的に2市1町の季節情報や最新情報などを紹介する情報を発信する。
具体的な旅程の検討に繋がる情報の提供	2市1町の資源や公共交通による周遊方法を紹介したマップの作成	○2市1町内の資源の位置が分かるマップを作成するとともに、資源の周遊が可能な交通手段ならびにその問い合わせ先を紹介する。
	2市1町への交通機関別アクセス方法情報の発信	○2市1町の観光拠点を設定し、その拠点までのアクセスに必要な所要時間や時刻表、運賃、乗り場、割引サービスなどを交通手段別に紹介する。
	2市1町内の交通機関別周遊方法情報の発信	○2市1町の観光拠点を設定し、その拠点から資源までのアクセスに必要な所要時間や時刻表、運賃、乗り場、割引サービスなどを交通手段別に紹介する。
	2市1町内の宿泊形態別宿泊施設情報の発信	○2市1町内にある宿泊場所の位置やアクセス方法、料金やサービス内容などを温泉旅館やホテル、キャンプ場などの形態別に紹介する。
回遊や滞留を促進する情報提供	気軽に立ち寄れる観光案内所の設置	○現地で観光客が気軽に立ち寄って、資源情報の収集や周遊先の検討などができるような案内所を設置する。
	現地で必要な情報が検索できるモバイル対応型インターネットサイトの設置	○現地で観光客がモバイル機器を利用して、資源情報の収集や周遊先の検討などができるようなインターネットサイトを設置する。
ホスピタリティの向上	地域住民を対象とした現地ツアーや講座の開催	○地域の住民に、地域のよさや魅力を見直してもらえるような新しい発見を紹介するガイド付きの現地ツアーや写真ツアー、講座などを開催する。
	新しい発見ができるような豆知識情報を発信するメールマガジンの発信	○地域の住民に、地域のよさや魅力を見直してもらえるような新しい発見を紹介する写真付きのメールマガジンを発信する。
	緊急時の問い合わせ窓口の設置と連絡体制情報の発信	○観光客の安心感を高めるため、観光時に事故や病気などの救急患者が出た場合の救急医療体制を整理し、救急情報などを案内する問い合わせ窓口を設置する。
	地域の最新情報交換会議の設置	○観光客のもてなしに係る地域活動団体や観光事業者、行政などのメンバーが観光客のニーズを情報交換し、連携した活動を展開するための意見交換を行う会議を設置する。
来訪者意向の把握とフィードバック	アンケート等による定期的な観光状況把握調査の実施	○2市1町の資源に訪れる観光客を対象としたアンケートを定期的の実施し、観光客の特性や評価、ニーズなどを把握する。
	観光状況把握調査の検証および公表	○2市1町の取り組みの方向性を検討するため、観光客の特性や評価、ニーズなどを把握する調査の結果を検証・公表する。

■ 実現化に向けた課題と今後の進め方

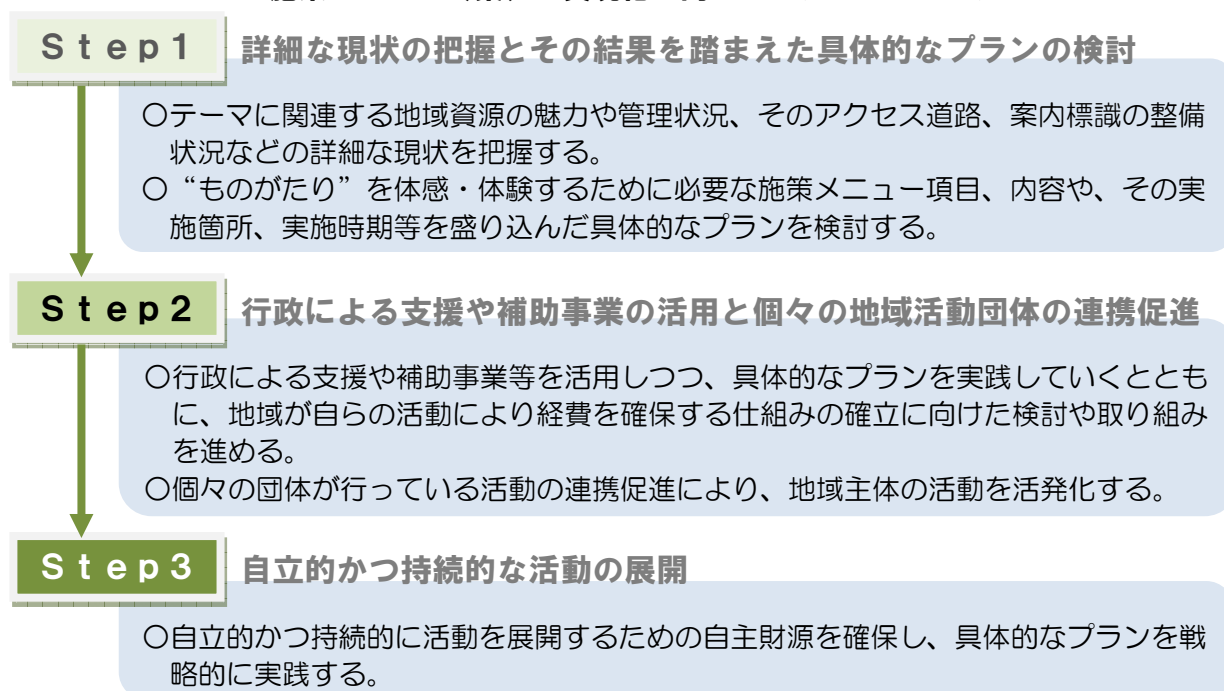
地域の活性化に向けた戦略的な施策展開の実現化に向けては、どこでどのような施策メニューを実施するかといった、施策の具体内容を明確にしていく必要があります。

さらに、具体施策の実施にあたっては、現実的な問題として、施設・設備等の整備や商品開発、人材育成、情報提供媒体の手配などといった、さまざまな費用が必要であり、そのための財源をどのように確保していくかが大きな課題となります。

持続的・自立的な施策展開を考える上では、最終的には地域が自主財源によりこうした費用をまかなっていくことが理想的ですが、現在の状況を考えるとすぐに理想的な取り組みや体制づくりを行うことは困難だと考えられます。

このため、当面はそれぞれの団体等が行っている連携促進や行政による支援・各種補助事業などを活用など検討することで、自立的な活動の展開に向けた基盤づくりを行っていく必要があると考えられます。

▼施策メニュー（案）の実現化に向けたステップイメージ

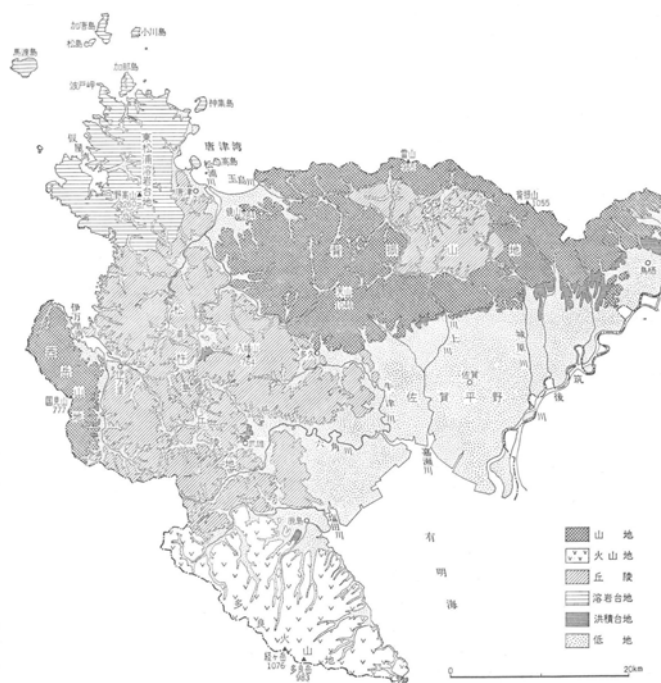


1. 地勢・観光動向データ

北は脊振山、西は六角川の八幡岳・武雄盆地、南は多良岳北麓から有明海、東は筑後川下流に接している筑紫平野の南東部に広がる佐賀平野は、筑後川や嘉瀬川・六角川などの搬出土砂が、干満の差の大きい有明海の潮汐の作用とあいまって堆積成長した極めて低平な堆積平野で、クリークが多くみられる土地です。クリークは、圃場整備により減少していますが、佐賀平野の灌漑用水路等になっており、底にたまった泥は掘り上げて肥料に使用されるなど古くから農業に欠くことができないものでした。

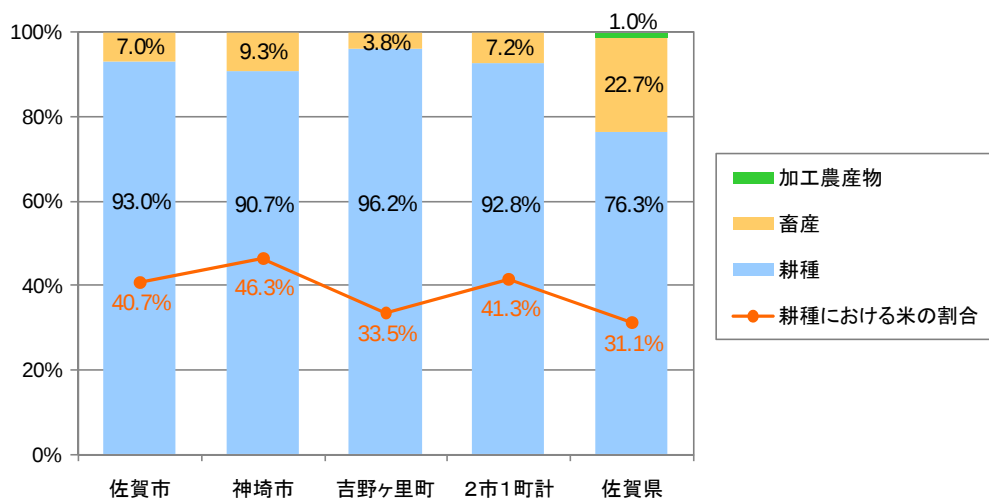
古代から稲作が始まったこの土地では、現在も農業産出額における耕種の米の割合は県平均を超えるなど盛んに行われており、特に神埼荘の中心部であった神埼市は米が約半分を占めています。

▼佐賀県の地形区分



出典：日本地誌

▼農業産出額における米のシェア



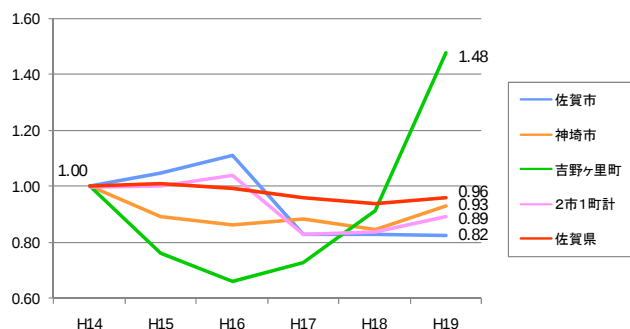
資料：生産農業所得統計

観光客は、国営吉野ヶ里歴史公園が観光客の約9割を占める吉野ヶ里町が平成14年比で増加傾向にあるものの、県及び2市1町の合計は減少しています。

観光客の特徴をみると、ホテルなどが多く立地する県庁所在地の佐賀市は県の平均に比べて宿泊が多いものの、神崎市、吉野ヶ里町の多くが日帰り観光客です。2市1町の主要な観光地で実施した観光客アンケートでは、2市1町の滞在時間が1時間と答えた人が約3割と最も多く、観光客の約7割が目的地は1か所だけと答えるなど、周遊観光客の割合が低い状況です。

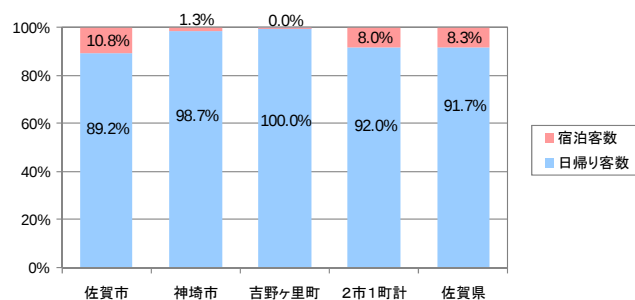
そのため、2市1町の観光消費額は、神崎市が580円、吉野ヶ里町が716円と極めて低く、県の平均観光消費額の2割前後程度しかありません。

▼入込観光客数の増減



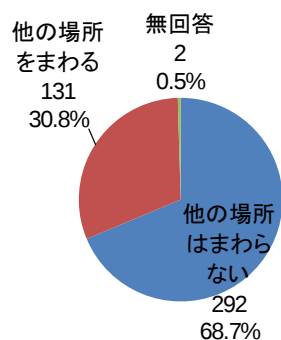
資料：佐賀県観光客動態調査

▼日帰り・宿泊別入込観光客数の割合



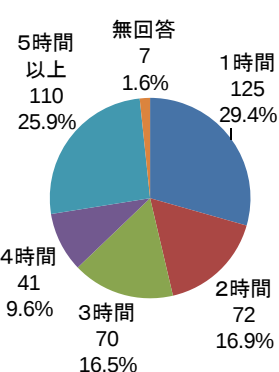
資料：佐賀県観光客動態調査

▼観光客の周遊状況



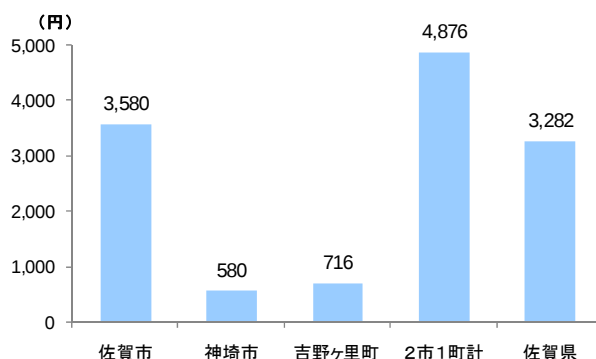
資料：観光客アンケート調査

▼観光客の滞在時間



資料：観光客アンケート調査

▼観光消費額



資料：平成19年 佐賀県観光客動態調査

【観光客アンケート調査の概要】

調査日：平成20年10月18日（土）、19日（日）の2日間

調査箇所：5か所

（吉野ヶ里歴史公園、神崎 湯葉・豆腐工房おしとり、道の駅大和、熊の川温泉 ちどりの湯、古湯温泉 山あかり）

調査方法：調査員による聞き取りアンケート

回収サンプル数：425票（男性231票、女性194票）

2. 5つのテーマの概要検討資料

基本方針（案）で設定している「5つのテーマ」の概要について、テーマごとに以下の項目を整理しています。

なお、ここで整理している「モデルコース」については、あくまでもイメージであり、所要時間や設備の有無などについては詳細な確認が必要です。

テーマの名称

テーマが該当する時代とテーマの概要

テーマの『関連キーワード』についてのコラム

表面

古代日本文化のあけぼの
平原光沢に伝わる遺跡群と伝説

佐賀歴史ものがたり街道1

佐賀歴史ものがたり街道1

佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1

佐賀歴史ものがたり街道1

佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1

テーマに関わる歴史上の主なできごと

テーマに関連する歴史的・文化的資源の位置図

半日で周遊する場合のモデルコース（イメージ）

裏面

佐賀歴史ものがたり街道1

佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1

佐賀歴史ものがたり街道1

佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1
佐賀県佐賀市佐賀区佐賀1-1-1

1日で周遊する場合のモデルコース（イメージ）

モデルコースに記載していない主な関連資源の概要

平原光沢に伝わる遺跡群と徐福伝説

古代日本文化のあけぼの

佐賀歴史ものがたり街道 1

原始	旧石器時代	佐賀歴史ものがたり街道 1 原始～古代をものがたる
	縄文時代	
	弥生時代	
古代	古墳時代	
	飛鳥時代	
	奈良時代	
	平安時代	
中世	鎌倉時代	
	室町時代	
近世	安土桃山時代	
	江戸時代	
近代	明治時代	
	大正時代	
現代	昭和時代	
	平成時代	

福岡南部から続く筑紫平野の西半分を占める佐賀平野は、北に背振山地、南に有明海を臨み、筑後川や嘉瀬川などが運ぶ土砂によって、肥沃な平野が形成された。

そのため、古くは縄文時代から集落がつくられ、背振山の山麓には、遺跡や古墳が数多く点在し、古代遺跡の宝庫となっている。

また、秦の始皇帝の命により、不老不死の霊薬を求めて徐福が上陸した地ともいわれ、徐福ゆかりのエピソードが多く残るとともに、古代日本に様々な大陸文化をもたらし、吉野ヶ里の集落にも大きな影響を与えたのではないかといわれている。

ここでは、私たちの原点とも言える原始から古代における生活文化のはじまりをひもとく。

地域のできごと

旧石器		
縄文		▼東名遺跡がつくられ、西日本最大級の貝塚ができる
弥生	紀元前5世紀	▼吉野ヶ里遺跡で小さな環濠集落が形成される ▼丸山遺跡がつくられる ▼高志神社遺跡がつくられる
	前4世紀	
	前3世紀	
	前2世紀	▼徐福が佐賀市浮盃に上陸、様々な伝説を残す ▼吉野ヶ里遺跡で青銅器が鑄造される ▼吉野ヶ里遺跡で朝鮮半島系の無文土器が使われる ▼吉野ヶ里遺跡で墳丘墓や大規模な甕棺墓がつくられる
	前1世紀	
	紀元後1世紀	▼吉野ヶ里遺跡で弥生時代最大級の環濠集落が形成される
	後2世紀	
古墳	後3世紀	
	後4世紀	▼佐賀平野2番目の規模を誇る銚子塚古墳がつくられる ▼王仁博士が百済から渡来、日本に初めて漢字の手本「千字文」を伝える
	後5世紀	▼丸山遺跡、導善寺前方後円墳がつくられる ▼県下最大の前方後円墳である船塚古墳がつくられる ▼石棺系装飾古墳の代表となる円墳、西隈古墳がつくられる
	後6世紀	▼関行丸古墳がつくられる ▼小隈山古墳がつくられる ▼乱斗山古墳群がつくられる ▼最大級規模の横穴式石室をもつ前方後円墳、伊勢塚がつくられる

弥生文化のうつりかわりを語る『吉野ヶ里遺跡』

1986年5月、工業団地の建設予定地から日本最大の弥生時代の遺跡が出土し、弥生時代前期（紀元前5世紀～前2世紀）の小さな環濠集落跡や、中期（前2世紀～紀元後1世紀）の3000基を超える甕棺墓と王族の墓、後期（後1世紀～後3世紀）の高床式倉庫群跡や物見櫓跡を含む弥生時代最大級の環濠集落跡などが発掘された。

弥生時代は、人々の生活が狩猟文化から農耕文化へと転換し、穀物の備蓄が可能になったことから、貧富の差や上下関係が生まれた時代である。

発掘の結果、吉野ヶ里遺跡は、前期から後期までの約600年間に朝鮮半島経由で伝わった米作り文化を取り入れたムラが、クニの中核集落へと発展していく姿をたどることができる貴重な遺跡であることがわかった。

なお、この発見は、九州には大規模な環濠集落はない、というこれまでの定説をくつがえし、日本古代史に新しい事実と新たな謎を投げかけている。

とくに、日本の様子を記した最古の記録である3世紀頃の中国の魏志倭人伝が伝える倭のクニグニの姿を思わせる拠点集落は、古代ロマンをかき立てる発見であった。

この貴重な資源は、国からも認められ、有柄銅剣やガラス製管玉等の出土品が国の重要文化財に指定されるとともに、1990年に国の史跡、翌年に特別史跡に指定され、「国営吉野ヶ里歴史公園」として整備されている。

また、中期の遺跡からは、青銅器の鑄造跡や朝鮮半島系の無文土器が出土しており、朝鮮と繋がりがあったことがわかっている。

甕棺墓から出土する人骨のほとんどが同時代の朝鮮半島の人骨と形式が似かよっていることから、新しい技術は半島から渡来した人々によってもたらされ、渡来系とよばれるその子孫たちによって担われたと考えられており、中国から渡来したといわれる徐福との関わりも研究されている。

多くの伝説、文化をもたらした中国の方士『徐福』

日本が農耕文化を開花させた弥生時代、海を渡った中国では、秦の始皇帝により初めて中国統一が統一された。すべての権力を中央に集め、はかりや貨幣、文字から思想まで統一し、万里の長城や大規模な宮殿・墓を築いた始皇帝にも老いとしの不安は避けられず、不老不死の霊薬を探すように神仙の術をおこなう方士（道士）に命を下した。その命を受けたのが「東海の蓬莱島の仙山にある仙草を食すれば不老不死を得ることができる」と進言した徐福。少年少女や百般の工人をふくむ三千の人々と五穀の種子などを数十艘の船に乗せ、蓬莱島をめざして船出した徐福がたどりついたという徐福渡来伝説は日本の各地にあるが、その中のひとつが佐賀である。

有明海にたどり着いた徐福一行は、上陸の地を決めるため、大きな盃を海に浮かべて流れ着いた地から海辺に生い茂る葦の葉の片側だけを切り払いながら進み、井戸を掘ってその水で手などを洗ったといわれている。

佐賀市諸富町寺井津には伝説にまつわる「浮盃」や手洗いの井がなまった「寺井」という地名が残っており、この地方の葦は、葉が茎の片側だけにつく片葉の葦になり、川に落ちた葉が筑後川流域だけに生息する「エツ」という魚になったという伝説が伝えられる。

また、そのほかにも徐福が種を植えたといわれる新北神社のジャクシンや徐福を恋に落ちたお辰を祀るお辰観音、徐福が佐賀平野の北方にそびえる蓬莱山、金立山でみつけた不老不死の薬「フロフキ（不老路）」など、徐福にまつわる話が数多く残っている。

また、徐福が渡来した弥生時代は水田稲作なども行われるようになっていった頃。徐福がもたらした五穀の種子や百般の工人達が、当時の日本に農業や土木、紡織などの知識と技術を伝えたのでは、ともいわれており、古代日本文化のはじまりとの繋がりが歴史ロマンをかき立てている。

古墳文化の博物館

3世紀後半～4世紀、西日本各地に特殊な壺形土器、器台形土器を伴った墳丘墓（首長墓）が現れる。古墳文化のはじまりである。

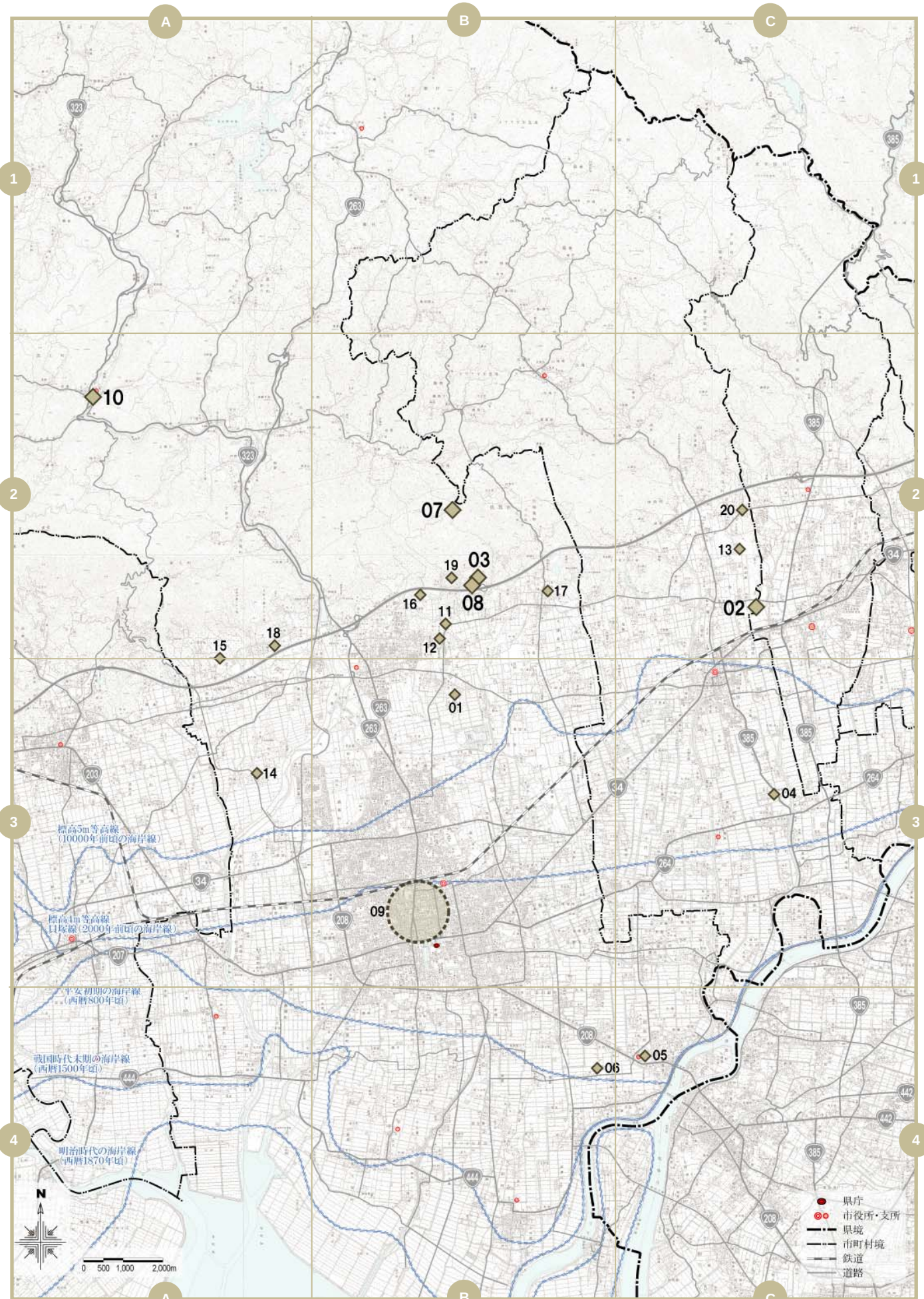
最初に出現したのは、前方後円墳のさきがけと位置付けられる円墳。その後、大型前方後円墳が建設された。4世紀には、佐賀平野の最古期の前方後円墳、銚子塚古墳がつくられている。銚子塚古墳がつくられた前期の副葬品は、呪術的な鏡などのほか鉄製農耕具、円筒埴輪や器財埴輪・家形埴輪がみられるが、銚子塚古墳からは埴輪の原形にあたる用途が推定される土師器壺が出土。佐賀平野における古墳文化の伝播と成立に重要な関わりを持つ古墳として位置付けられている。

5世紀になると、大型前方後円墳がさらに巨大化し、堅穴式石室が狭長なものから幅広なものになり、長持ち型石棺を納めるようになった。5世紀後半には、横穴式石室が採用されるものが増え、装飾古墳も出現。佐賀平野でも石棺系装飾古墳の代表である円墳、西隈古墳がつくられており、玄室に赤色顔料を塗った初期横穴式石室で、横口式の家型石棺が確認されている。

6世紀～7世紀前半の後期には、西日本の古墳に横穴式石室が盛んに造られるようになり、北部九州で装飾古墳が盛行。玄室内面に赤色の円文のある片か最大級規模の横穴式石室をもつ伊勢塚が6世紀後半につくられた。

1日ものがたりモデルコース

半日ものがたりモデルコース



時 間：9:00～17:00
(6～8月は18:00まで)
定休日：12月31日、1月第3
月曜日およびその翌日
料 金：15歳以上 400円
小・中学生 80円
駐車場：あり (普通車300円)
トイレ：あり

約8km 車で約15分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

約0.5km 車で約1分



時 間：9:00～17:00
定休日：月曜日・祝日の翌日、
年末年始
料 金：大人 300円
小・中学生 150円
駐車場：あり
トイレ：あり

約4.5km 車で約10分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

約18.5km 車で約30分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：有料 (施設ごと)
駐車場：あり (施設ごと)
トイレ：あり

02 吉野ヶ里遺跡 C-2

吉野ヶ里丘陵の南部に位置する、推定延長2.5kmの壕に囲まれた全国一規模の弥生時代の環壕集落跡。発掘調査で多数の住居跡、高床倉庫群跡、3,000基を超えるかめ棺墓、王族の墓である墳丘墓などが発掘されている。墳丘墓からは、ガラス製の管玉などが出土し、大陸との交流のうかがわれる。国の特別史跡に指定。



03 丸山遺跡 B-2

縄文時代晩期から弥生時代前期の118基の支石墓と、5から6世紀の12基の古墳群が小さな台地上にまとまって存在していた複合遺跡で、支石墓、甕棺墓、石棺墓なども多数出土。長崎自動車道建設のために、この場所に移された。長崎自動車道・金立サービスエリアから歩いて見学することができる。



08 徐福長寿館 B-2

今から2200年前、秦の始皇帝から不老不死の薬を探す命を受け、渡来した徐福が金立山山頂で仙人に会い、薬草フロフキを発見したと伝えられている。その故事にちなみ、「健康と長寿」をテーマにした資料の展示や、徐福伝説を紹介する施設を開館。園内にはフロフキや、500種、5万本の薬草木が植えられている。



07 金立神社 B-2

平安時代の860年に従五位下を賜った保食神、岡象女神、徐福を祀る神社。穀物の神、水の神としてあがめられており、江戸時代には雨乞いに霊験のある神として、佐賀藩主をはじめ多くの人々に崇敬されていた。上宮は佐賀市北部の金立山山頂近くにあり、神殿・拝殿は県内でも珍しい石殿。



10 古湯温泉 A-2

佐賀駅の北方20km、標高200mの山峡にある国民保養温泉地。画家青木繁や歌人の齋藤茂吉ら諸先生の曾遊の地として知られる。古文書によると、金立山の北山の翁として生活していた徐福の前に「湯の神」が現れ、岩間から油のように湯が湧き出ずる場所を告げたことがはじまりとされている。



約8.5km 車で約15分



08 徐福長寿館 B-2

徐福伝説を紹介する施設。園内には不老不死の薬「フロフキ」をはじめとする薬草木が植えられている。

約15km 車で約25分



10 古湯温泉 A-2

徐福が湯の神のお告げにより発見した温泉。

◆モデルコース以外の関連資源

01 東名遺跡 (B-3)

縄文時代後期の中では西日本最大級の集落および貝塚遺跡。

04 高志神社遺跡 (C-3)

佐賀平野平坦部に立地する弥生時代の集落。

05 エツ (C-4)



徐福上陸時に落ちた筆の葉が姿を変えた魚。

06 新北神社 (B-4)



徐福が上陸の証として植えたビャクシンの木がある。

09 えびす像 (B-3)

長崎街道沿いにある420体以上の商売繁盛祈願のえびす像。

11 お辰観音 (B-2)

徐福と恋仲になったお辰の悲恋を哀れんでつくった観音像。

12 銚子塚古墳 (B-2)

佐賀平野における古墳文化の伝播と成立に重要な関わりを持つ、佐賀県下最古期の古墳。

13 王仁(鰐)神社 (C-2)

百済から日本に初めて漢字の手本である「千字文」を伝えた王仁博士を祀った神社。

14 導善寺前方後円墳 (A-3)

低位段丘上にある古墳。

15 船塚古墳 (A-2)

全長114メートルの県下最大の前方後円墳。

16 西隈古墳 (B-2)

5世紀末の築造と推定される、石棺系装飾古墳の代表。

17 関行丸古墳 (B-2)

初期横穴式石室の前方後円墳。

18 小隈山古墳 (A-2)

墳形を保つ古墳。

19 乱斗山古墳群 (B-2)

巨大な石材で石室を構成した群集墳。

20 伊勢塚 (C-2)

県下最大規模の横穴式石室の前方後円墳。

地図・
アイコン
の見方

◆ 資源の位置
01 資源番号 (資源紹介の番号と対応)

A-1 地図上の
概ねの位置

🕒 定休日等見学時間や
季節に制限がある施設

¥ 料金の
必要な施設

P 駐車場が
ある施設

🚻 トイレが
ある施設

時の権力者を魅了する 黄金色にきらめく豊熟の佐賀平野

佐賀歴史ものがたり街道 2

原始	旧石器時代	佐賀歴史ものがたり街道 2 古代～近世をものがたる
	縄文時代	
	弥生時代	
	古墳時代	
古代	飛鳥時代	
	奈良時代	
	平安時代	
	鎌倉時代	
中世	室町時代	
	安土桃山時代	
近世	江戸時代	
	明治時代	
近代	大正時代	
	昭和時代	
現代	平成時代	

壱田永年私財法をきっかけに全国で開墾がはじまり、貴族や武士達が己の力、権力を高めていった時代。古より開拓が行われていた広大で肥沃な佐賀平野は、時の権力者にとって、まさに黄金色に光り輝く土地であった。

なかでも、神埼荘は皇室領として日本有数の広さを誇るとともに、荘官となった平家一族が宋との貿易で大きな財力を築き「平家にあらずんば人にあらず」と称されるほどの栄華を極める基礎をつくった場所でもある。

信仰を集めた寺社が荘園をもち権力を持った時代、元寇の恩賞として武士に所領が与えられた時代など、時の流れは変わっても、その中心には必ず佐賀平野がある。

ここでは、さまざまな権力者によって佐賀の地が治められた古代から近世の時代を振り返る。

地域のできごと

飛鳥	568年 紀元後5世紀	▼与賀神社が創建される ▼古代山城、帯隈山神籠石が築造される ▼幹線道路として西海道がつくられる ▼霊仙寺が開山され、山岳仏教の中心地となる
	709年	
奈良	741年	▼聖武天皇が国分寺建立を命じる（肥前国分寺も建立される） ▼壱田永年私財法が発布される（条里制も発達） ▼日の隈山（現在の日の隈公園）に烽がおかれる ▼肥前国府の中央官庁、肥前国庁が建設される ▼辛上魔寺が建立される
	743年 後8世紀	
平安	1115年 1185年 後12世紀	▼神埼郡が開墾され、皇室領神埼荘が成立 ▼鎮西奉行として武藤氏（後の少武氏）が赴任 ▼鳥羽上皇が櫛田宮を修造 ▼神埼荘の荘官、平忠盛が宋と密宋貿易をする
		▼白髭神社で白髭神社の田楽がはじまる
鎌倉	後13世紀 1292年 1336年	▼小松神社で小松の浮立がはじまる ▼神埼荘が約3000町の大荘園となる ▼京都から下った足利尊氏が少武氏の助けにより再起、東妙寺での祈禱後京都にのぼる ▼この年の文書に姉川城が初見される ▼東妙寺が肥前国内の領主達の帰依をあつめ、多くの土地が寄進される
	1360年 後14世紀	
室町		▼脊振山から福岡へつながる筑前街道ができる
	後15世紀	▼佐賀県下最古期の建築、与賀神社楼門が建てられる ▼佐賀平野独自の城、直鳥城が築城される ▼隆造寺氏が北九州地方の有力戦国大名となる ▼少武氏が太内氏に敗れる
安土桃山	1584年	▼龍造寺当主が戦死、鍋島直茂が執政として龍造寺家の采配を取る ▼豊臣秀吉、龍造寺家の実権を鍋島直茂に移す ▼鍋島直茂が修学院を再興させる
	1590年 1600年	
江戸	1603年	▼鍋島直茂夫人が与賀神社の三の鳥居、石造肥前鳥居を奉献 ▼鍋島直茂が与賀神社の石橋を寄進
	1606年	

政治的な権力を左右した佐賀平野の荘園

奈良時代の743年、日本の農業の発展に大きく影響を及ぼした法律、壱田永年私財法が大和朝廷により制定された。

壱田永年私財法は開墾地の永世私有をみとめた法律で、723年の三世一身の法で3代にかぎって開墾地の私有をみとめたが、それでも土地の開墾が思うように進まなかったためにつくられた法律。諸国を治めていた国司のゆるしを得て開墾した土地（壱田）の私有をみとめたことから、貴族・社寺による大規模な壱田の私有がさかんになった。

低平で肥沃な沖積平野である佐賀平野も例外ではなく、資財豊かな皇室、貴族、寺社、武家などはこの地で積極的な開墾を進めて私有領地として荘園を広げ、蓄えた豊かな財力で政治的な権力を握っていった。

この地域には、京都の最勝寺所有の川副荘、上皇などの院の御領であった巨瀬荘、安富荘、関白・藤原道家所有の与賀荘、太田荘など、いくつかの荘園がつくられていたことがわかっているが、中でも、皇室領であった神埼荘は836年に開墾され、神崎市神崎町の櫛田宮あたりを中心に、神崎市千代田町、背振町、吉野ヶ里町、佐賀市の一部にわたる3000町歩（約3000ha）もの広さを誇る大きさであった。神埼荘は、皇室領のなかでも非常に規模が大きい荘園であったことが知られており、神崎市周辺には古代の土地管理制度「条里制」との繋がりが伺える“里”の地名がつく集落が点在している。

また、平安時代も終わりに近づくと、中央集権国家の力が弱まり、日本の対外貿易を監督していた大宰府の機能が低下した。この時代の流れを読み取り、中国の宋との私貿易を積極的に展開したのが、平清盛の父、忠盛である。後鳥羽上皇の後ろ盾から、神埼荘の荘官になっていた忠盛は、大宰府から干渉されることもなく、宋の商人達と盛んに貿易を行い、宋銭、陶磁器、絹織物、書籍、文具、香料、薬品などから莫大な利益を得て、平家一族の大きな財源を築いていった。平家一族の肥前進出は一族が1185年に壇ノ浦で滅亡するまで続いていた。

佐賀の遺跡からは、日宋貿易でもたらされた宋の陶磁器などが発掘されている。

国家から庶民まで幅広い信仰を集めた神社仏閣

福岡・佐賀県境に東西約60kmに渡って連なる脊振山地の主峰、脊振山を背後に広大な佐賀平野が広がるこの地域は、豊かな自然に恵まれていたことから、古くから様々な信仰が行われていた。

背振山では、8世紀初頭の和銅年間、元明天皇の勅を受けた湛譽上人が霊仙寺を開山。福岡の英彦山、大分の六郷満山とならぶ九州の山岳仏教文化の聖地がつくられた。

脊振山の頂上を上宮、中腹にある霊仙寺一帯を中宮、山の麓にある修学院を下宮と称し、平安時代から鎌倉時代には「脊振千坊」と称されるほど、山腹一帯に堂が建ち並び、天台密教の拠点として栄えた。その後、戦乱により衰退。明治5年に閉山し、現存する建物は乙護法堂一棟のみとなっているが、石垣や経塚などから往時の様子を伺うことができる。

一方、佐賀平野では肥前国有数の古社として櫛田宮が鎮座している。広大な荘園の中心部に位置するという地理的特徴から、古来より農業の神として崇拝されるとともに、厄除けの神としても信仰を集めていた。

一説では、国指定無形文化財の祇園山笠で有名な博多櫛田神社は、神埼荘所領の平家が日宋貿易の貿易品や年貢の積出港である博多に櫛田宮の分社として勧請し、そのご加護を祈ったといわれている。

また、「櫛田大明神縁起」には元寇の弘安の役に際して博多櫛田神社へ神剣を移して祈願した記録が残っており、国難から個人の厄災招福まで、その首い御袖徳が今の時代まで変わらぬ信仰がられている。

肥前国の中枢を担った国府と古代官道

645年の「大化の改新」を契機に中央集権的政治体制の確立をめざした大和朝廷は、それまでの国造など地方豪族による地方統治体制を廃して、中央官吏による直轄統治体制を推進。地方統治の単位は国と定められ、九州地方の国や郡は「大宰府」の統治下におかれた。

国には、中央から派遣されてきた国司が政務を執る国庁を中心に造成された国府が設けられ、徴税、軍事、治安維持などが行われていた。

佐賀市大和町では、1975年から10年間にわたり発掘調査を行い、奈良時代から平安時代前期にかけて肥前国の中心となった肥前国庁の様子を確認。肥前国庁は、エリアの拡大や翼廊・堀の設置などを経て、大宰府政庁とよく似た形式の建物配置となり、10世紀後半に役割を終えるまで存続したことがわかっている。

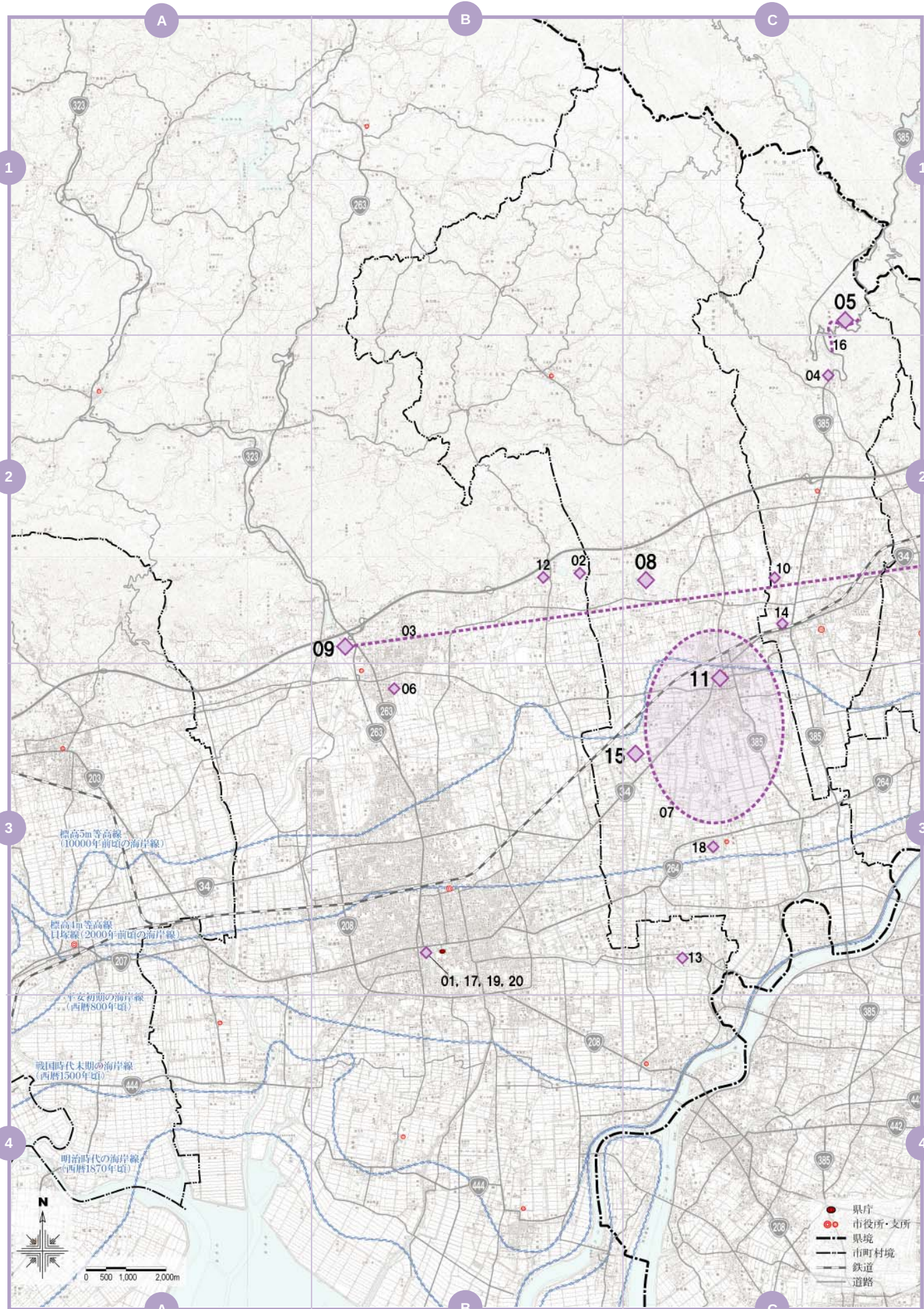
また、肥前国庁の位置を地図で見ると、大和町の国府は大宰府から一直線の鳥栖まで、吉野ヶ里、中原を経由しながら直線上につながっており、これらの町ではいくつかの古代官道、西海道跡が見つかっている。

西海道は、中央政府の指令を伝える重要な道であり、調・庸など現物税が通る生活の道でもあった。

なお西海道沿いには、国状不安を鎮撫するために各国に立てられた国分寺跡が残る。

1日ものがたりモデルコース

半日ものがたりモデルコース



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

◆ 霊仙寺乙護法堂 C-1

709年、元明天皇の勅願寺として湛
譽上人が霊仙寺を開山。山険しく絶
景に恵まれた霊地に叶ったところ
で、幾多の名僧が修行し、九州でも
山岳仏教の聖地として代表的な寺で
あった。春振千坊と称されるほどの
隆盛を誇っていたが、戦乱により衰
退。現在では江戸時代末期に建立さ
れた乙護法堂を残すのみである。



約 12km 車で約 20 分



時 間：見学自由
定休日：火曜日（体育館施設・
カヌー）
料 金：有料（多目的グラウンド・
体育館施設・カヌー）
駐車場：あり
トイレ：あり

◆ 日の隈公園 C-2

奈良時代から、通信・伝達施設とし
て烽が置かれていた日の隈山の麓に
ある総合公園。山麓部には、古代官
道や農業用の溜池が数多く存在して
おり、農業の安定的な生産のための
用水確保と洪水等の調整機能をもっ
ている。江戸時代以降は肥前七隈の
一つとしての景勝地で、春には、桜・
新緑、秋には紅葉が楽しめる。



約 4km 車で約 10 分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

◆ 榊田宮 C-3

神埼町の中心部に位置し、榊稲田姫
命・須佐之男命・日本武命を祭神と
する古社。農業神、厄除神を祭る宮
で神埼庄の総鎮守である。現在も「太
神楽」や「締元行列」などの農業に
まつわる民俗芸能が伝承されてお
り、境内には、御神幸祭絵馬、能面
など多くの文化財を保存している。



約 4km 車で約 10 分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：なし
トイレ：なし

◆ 姉川城跡 C-3

中世の農村集落の発生から城館跡へ
と発展・拡大していく過程を良好に
残す遺跡。14世紀前半頃にこの地
区で小規模な農村集落が形成され、
その中から領主層が生まれ城館を形
成する過程を見ることができる。ク
リークに生息する動植物等もあわせ
て、佐賀平野の農村景観の保全とい
う観点から重要な遺跡である。

約 11km 車で約 20 分



時 間：9:00～16:30
定休日：月曜日
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

◆ 肥前国庁 B-2

奈良時代から平安時代前期にかけ
ての肥前国の中心となった役所跡。10
年間の発掘調査により、政庁跡区域
と、その内外の主要な建物跡が見つ
かり、国庁跡の全容が明らかとなっ
た。行政組織や国庁の造営に大宰府
の強い影響がうかがえる。国庁の内
部が明らかになった遺跡は全国的に
も珍しい。国指定史跡。



◆ 榊田宮 C-3

神埼町の中心部に位置し、農業神、厄
除神を祭る古社で神埼庄の総鎮守。

約 4km 車で約 10 分



◆ 日の隈公園 C-2

奈良時代から、通信・伝達施設とし
て烽が置かれていた日の隈山の麓に
ある総合公園。

約 9km 車で約 15 分



◆ 肥前国庁 B-2

奈良時代から平安時代前期にかけ
ての肥前国の中心となった役所跡。国指
定史跡。

◆ モデルコース以外の関連資源

◆ 与賀神社 (B-3)

欽明天皇の代の創建で、淀姫大神を祭神とする古社。楼門は佐
賀県下最古期の建築。

◆ 帯隈山神籠石 (B-2)

佐賀市の北部山麓に築かれた古代山城。

◆ 西海道 (B-2, C-2)

わが国古代の地方行政区画・官道である七道の1つ。

◆ 坂本修学院 (C-2)

1596年頃、佐賀藩主鍋島直茂公の命により再興された、天台
宗の由緒ある寺。桜としゃくなげの名所としても有名。

◆ 肥前国分寺跡 (B-3)

聖武天皇が741年に国状不安を鎮めるために各国に建立を命
じた寺院のひとつ。

◆ 「里」や「条」がつく集落 (C-2, C-3)

古代の条里制による呼称を伝えている集落の名称。

◆ 辛上魔寺 (C-2)

奈良期創建とされる寺院。

◆ 白鬚神社の田楽 (B-2)

中世に流行した芸能の一つで、毎年白鬚神社に奉納される。

◆ 小松の浮立 (C-3)

平家の残党が小松殿、平重盛を追慕して小松神社に奉納したこ
ことからじまった祭り。

◆ 東妙寺 (C-2)

元寇に際し後宇多天皇の勅願によって、西大寺の唯円上人が創
建した寺。

◆ 筑前街道 (C-1, C-2)

肥前・筑前街道から春振坂越え間の道。

◆ 与賀神社（楼門） (B-3)

現在まで幾度も大修理が施された佐賀県下最古期の建築。室町
時代前後の建築と推定される。

◆ 直島城跡 (C-3)

四周が堀で囲まれ、さらにその中を縦横網目状に堀が廻る南北
朝時代の城跡。

◆ 与賀神社（石造肥前鳥居） (B-3)

佐賀藩祖鍋島直茂の夫人が奉献。笠木と島木が一体化し、柱を
生け込み、肥前鳥居の特色を良く残している。

◆ 与賀神社（石橋） (B-3)

欄干についている青銅製の擬宝珠に1606年の造立銘がある反
り橋。佐賀藩祖、鍋島直茂が寄進。

地図・
アイコン
の見方

◆ 資源の位置
01 資源番号（資源紹介の番号と対応）

A-1 地図上の
概ねの位置

🕒 定休日等見学時間や
季節に制限がある施設

¥ 料金の
必要施設

P 駐車場が
ある施設

🚻 トイレが
ある施設

近代日本の礎をつくった長崎街道と佐賀の俊英

湧き上がる思いに導かれて

佐賀歴史ものがたり街道 3

原始	旧石器時代
	縄文時代
	弥生時代
古代	古墳時代
	飛鳥時代
	奈良時代
	平安時代
	鎌倉時代
中世	室町時代
	安土桃山時代
近世	江戸時代
	明治時代
近代	大正時代
	昭和時代
現代	平成時代

佐賀歴史ものがたり街道 3
近世～現代をものがたる

戦国時代といわれる覇権争いののち、徳川家康によって江戸幕府が開かれ、日本は天下太平の世をむかえた。鎖国政策により唯一海外との交流を許された長崎へとつながる長崎街道を通じて、新たな文化や技術が花開いた。時が過ぎ、江戸の時代が200年を迎えるころになると各地を統治する諸大名の力は落ち、幕府の統率力も低下。世界では大航海時代が終焉してヨーロッパ諸国による植民地化が進められるなど、世界規模での勢力圏争いがはじまったのである。

ここでは、この激動の時代に藩の所領のみならず日本のあるべき姿を描き、明治新政府の確立など近代日本の礎を築いた「佐賀七賢人」などが活躍した、近世から現代までの約400年間を追う。

地域のおもなできごと

安土 桃山	紀元後16世紀 1552年	▼鍋島家の祖、長岡氏が御館の森に居を構える ▼鍋島清房が高伝寺を創建
	江戸 1607年 1634年	▼龍造寺家家督を相続した鍋島氏が佐賀藩を統治 ▼参勤交代制が義務づけられ、長崎街道や宿場町、一里塚などが整備される
明治	1642年 後17世紀	▼佐賀藩と福岡藩が長崎港の警護を命じられる ▼鍋島勝茂が高伝寺を鍋島家菩提寺とする ▼山本常朝が華蔵庵で湛燃和尚に教えを受ける ▼山本常朝の談話が『葉隠』としてまとめられる
	1716年	▼藩校「弘道館」が開設される
	1781年	▼野中島犀園の座敷と店部分が建設される
	1796年	▼長崎でフェートン号事件が起こる
	1808年	▼鍋島直正が第10代佐賀藩主となる
	1830年	▼鍋島直正が「医学館」を開設する
	1834年	▼鍋島直正が別邸として神野公園に茶室を建設
	1846年	▼医学館で牛痘接種法が日本で初めて成功
	1849年	▼鍋島直正が洋式反射炉の築造に着手
	1850年	▼佐賀藩が三重津に「船手稽古所」を設置
	1858年	▼アームストロング砲をほぼ自力で完成させる
	1866年	
	1868年	▼副島種臣が「政体書」を起草 ▼大木喬任と江藤新平が「東京選都論」を政府に提出、大木が東京府知事に任命される
	1869年	▼島義勇が北海道に開拓使判官として現地に赴く
	1872年	▼江藤新平が初代司法卿となり各種法典を制定
	1874年	▼江藤新平、島義勇が「佐賀の役」をおこす
大正	1877年	▼佐野常民が「博愛社」を設立し、敵味方なく西南戦争の負傷者を救護
	1882年	▼大隈重信が早稲田大学前身の東京専門学校創立
	1887年	▼佐野常民が博愛社を日本赤十字社と改める
	1898年	▼大隈重信が日本初の政党内閣を成立させる
	1901年	▼実業家、伊丹弥太郎が九年庵を完成させる
	1914年	▼古賀銀行神埼支店が建築される
	昭和 1927年 1935年	▼鍋島家所蔵資料博物館として徴古館ができる ▼旧国鉄佐賀線の筑後川昇開橋が完成
	平成 2004年	▼佐賀県立佐賀城本丸歴史館が開館 ▼佐野常民記念館が開館
	2005年	▼三重津海軍所跡地を歴史公園として整備

近代日本の発展の先駆者となった佐賀の七賢人

幕末から明治にかけて、西南の雄藩として「薩長土肥」と呼ばれた佐賀藩には、かつて藩の財政が破綻寸前とまでいわれた時代がある。その佐賀藩を大きく変えたのが、ひとつの事件とひとりの藩主であった。

1639年、日本の独自文化の発展に大きく影響した鎖国体制が完成するなか、江戸幕府は長崎に近接する福岡藩と佐賀藩に対して一年交替で警備にあたるように命令。長崎警護は幕末まで続き、佐賀藩の財政も圧迫していた。その状況下、佐賀藩の当番年であった1808年に江戸幕府を大きく動揺させる事件が起こる。イギリス軍艦の侵入を許してしまった「フェートン号事件」である。この事件は佐賀藩の屈辱的な軍事失態となったが、一方で大きな教訓にもなり、佐賀藩が長崎を通じた西欧先進国の最新情報や科学知識の吸収や国防や軍備の研究を進めていくきっかけとなった。

フェートン号事件から22年後の1830年、10代藩主となった鍋島直正は、藩の殖産興業を進めていく一方で、軍備強化の必要性を実感。様式大砲を製造する「火術方」や海軍強化のための「船手稽古所」を藩に設置した。また、低迷していた弘道館を再興するための教育改革も推進。佐賀藩士の子弟はすべて弘道館に入学することが義務づけられ、成績優秀なものは、その家格を問わず藩の役人として積極的に登用した。その結果、めざましい藩政改革を実現した佐賀藩は、幕末の日本において最先端の科学技術をほこり、幕府をもしのぐ軍事力を備えるとともに、明治新政府において大きな活躍をみせた多くの人材を輩出した。なかでも、島義勇、佐野常民、副島種臣、江藤新平、大木喬任、大隈重信は、鍋島直正を含めて佐賀七賢人と呼ばれ、新国家建設に向けて大きな力を発揮している。

島義勇は、病気のため実務に取りかかることなく開拓使初代長官を辞任した鍋島直正の意志を継ぎ、開拓使判官に就任。現地に赴き、まったくの原野であった札幌に近代的な市街を建設する事業に着手した。長官と対立して罷免されたが、後任者により島の構想に沿った市街建設が続けられた。

佐野常民は日本海軍の基礎づくりに尽力した一方、パリ万国博覧会で「国際赤十字社」の精神に触れたことで、1877年に西南戦争が起きるとのちの日本赤十字社となる「博愛社」の設立を提案。政府軍と反政府軍の区別なく負傷者の救護にあたった。

副島種臣は「政体書」を起草し、新政府の政治組織を法制化するとともに、ロシアとの国境問題や中国人苦力を解放したマリア・ルーズ号事件など新政府の国際外交を進めた。

江藤新平は初代司法卿となり、民法などの各種の法典の制定を進め、新国家の法世を近代化した司法権独立の基礎をつくった。

大木喬任は江藤新平と連名で「東京選都論」を新政府に提出し、京都から東京に首都が移された後には東京府知事に任命された。また、文部卿として近大教育制度の確立にも力を注いでいる。

大隈重信は板垣退助と組んだ日本初の政党内閣を成立させ、首相に就任。日本の政党政治の歴史に大きな足跡を残すとともに、今日の早稲田大学の前身である東京専門学校も創立した。

日本に新たな文化をうんだ長崎街道

江戸幕府は全国支配を固めるために、江戸と各地方を結ぶ基幹となる5つの本街道を定めるとともに、脇街道や間道も整備。次第に交通網が整えられ、各街道には宿場が置かれた。

長崎街道も江戸時代に整備された脇街道のひとつ。鎖国政策をとっていた江戸時代において、長崎は外国と公式に接触する唯一の窓口であったため、長崎に通じる長崎街道は非常に重要な意味を持ち、九州地方第一の幹線道路となった。長崎奉行の交代やオランダ商館の江戸参府などの往還のほか、商人なども盛んに往来した長崎街道では、多くの物資や情報が伝達されていった。

長崎街道が通るこの地域にも、宿場町が生まれ、街道を通して伝わった技術から丸ぼうろや肥前ビードロなど、多くの特産物がつくられている。

神埼宿は櫛田宮の門前町を利用して、街村を整備し旅籠など泊地としての構えを整えたもの。櫛田宮の近くには藩の迎賓館とも言える御茶屋や、シーボルトやケンペルなどの外国使節団も泊まった真光寺、浄光寺などの脇本陣があり、そのほか宿内には高札場、駄馬問屋場などもあった。

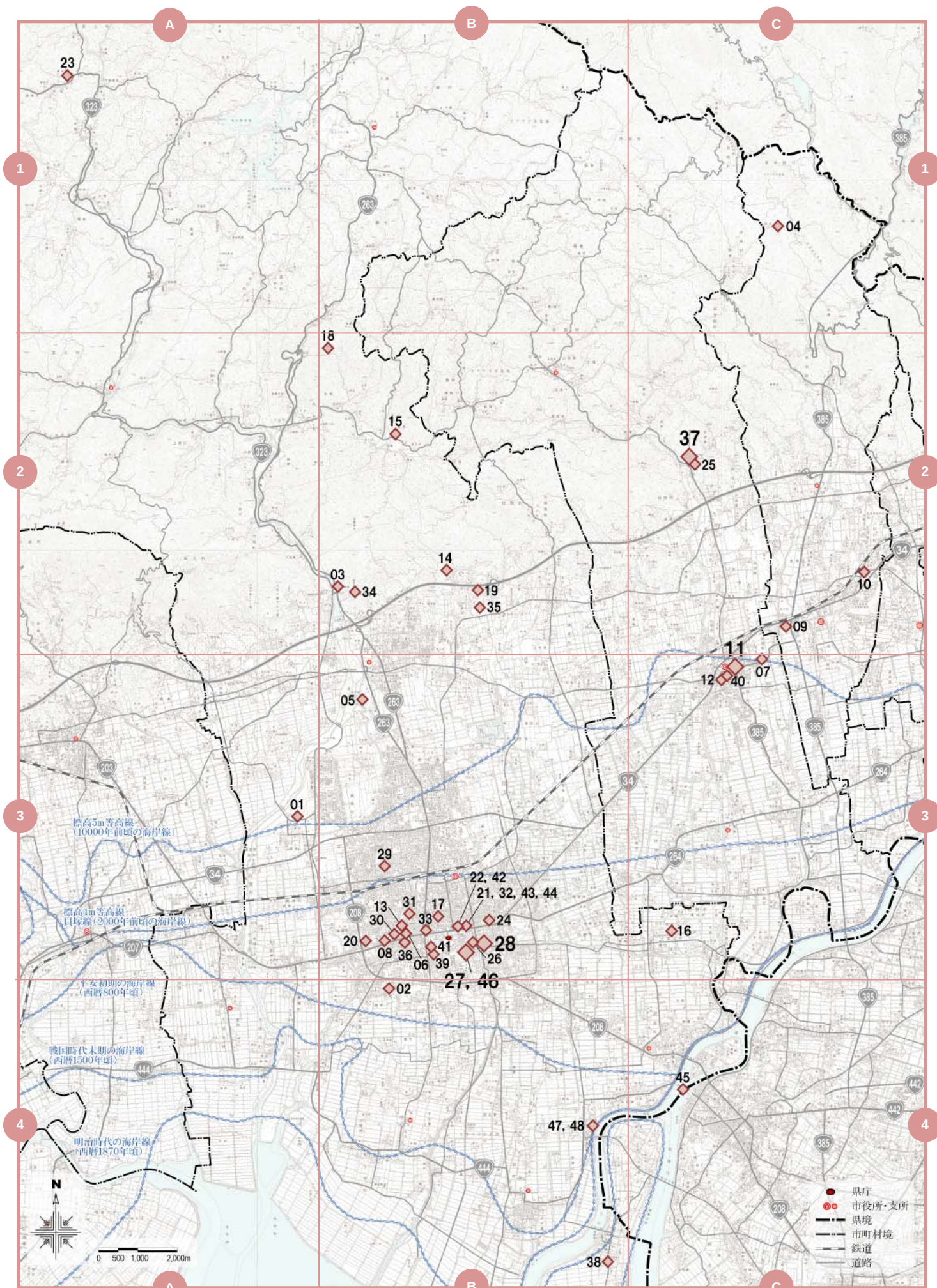
また、神埼宿の手前には長崎街道で唯一現存している街道の道しるべ「ひのはしら一里塚」がある。1604年に幕府が設置を命じた一里塚は日本橋を起点に主要な街道の目印として一里ごとに設けられており、木陰で旅人が休息を取れるように木が植えられていた。

日本の近代医学を先行した佐賀藩

伝染病の発生・流行の予防のため、事前に毒性を弱めた病原体などを体内に注入し、長期間の免疫をつくる“予防接種”を日本で初めて政策として取り入れたのは10代佐賀藩主、鍋島直正である。

直正の医療政策は大変先駆的なもので、佐賀蘭学の先駆者、島本良順を招いた蘭方医学の導入や、のちの好生館となる「医学館」の開設、伊東玄朴や大石良永らの招聘による蘭学研究の本格化などに取り組んでいった。なかでも、当時もっとも恐れられていた天然痘を予防する牛痘接種法が佐賀藩医の楢林宗建によって1849年に初めて成功したことは、その後の天然痘の撲滅に大きく寄与。伊東玄朴らの東大医学部の前身『神田お玉が池種痘所』の開所にもつながっている。

また、我が国の近代医学の導入にあたっては、明治維新の日本医学を指導してくれる国としてドイツ医学を選択した佐賀藩出身の医学者で、第一大学区区学校長（現在の東京大学医学部）の相良治安も活躍した。



地図・アイコンの見方

◆ 資源の位置 01 資源番号 (資源紹介の番号と対応)	A-1 地図上の概ねの位置	🕒 定休日等見学時間や季節に制限がある施設	¥ 料金の必要な施設	P 駐車場がある施設	🚻 トイレがある施設
---------------------------------	---------------	-----------------------	------------	------------	------------

1日ものがたりモデルコース

◆ 九年庵 C-2



時 間：11月中旬から下旬の9日間 8:30～16:00
(入園整理券配布)
定休日：公開日以外
料 金：美化協力金 300 円
(中学生以下無料)
駐車場：あり
トイレ：あり

明治期の佐賀の大実業家、伊丹弥太郎が築造した6,800平方メートルの別荘と庭園。庭園が福岡県久留米の作庭家、阿和尚の指導により、明治33年から約9年の歳月をかけて築庭されたことからこの名前がついた。毎年11月中旬の紅葉の時期に、9日間だけ一般公開される。国指定名勝。



約 5km 車で約 10 分

◆ 神埼宿 C-3



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：なし
トイレ：なし

江戸時代より歴史の古い櫛田宮の門前町を利用して街村を整備し旅籠など泊地としての構えを整えたもので、各藩主の長崎奉行をはじめシーボルトも通った道という大変由緒ある宿場であり街道。神埼には本陣や脇本陣、問屋場が置かれた。神埼素麺は、宿場町名物として普及し旅人の楽しみともなっていた。

約 9.5km 車で約 15 分

◆ 大隈重信旧宅 B-3



時 間：9:00～17:00
定休日：年末年始
資料等整理期間
料 金：大人 300 円 小人 150 円
駐車場：あり
トイレ：あり

早稲田大学の創設者、そして2度にわたり総理大臣をつとめた大隈重信の生家。佐賀藩の家臣の屋敷が集まり、川筋には蔵屋敷や問屋街が並び、小路には役人や商人が集まる会所があったことからその名がついた佐賀市の会所小路の一角に残る。東京へ移るまで、この家で生活した。国指定史跡。



約 1km 車で約 5 分

◆ 佐賀城本丸歴史館 B-3



時 間：9:30～20:00
定休日：年末 (12/29～12/31)
資料等整理期間
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

佐賀市城内の県史跡佐賀城跡に、幕末期の佐賀城本丸御殿の一部を忠実に復元した建物として2004年に開館。復元建物としては日本最大の規模を誇り、日本の近代化を先導した“幕末維新期の佐賀”の魅力を分かりやすく紹介している。常駐のボランティアガイドによる解説が大好評。



約 0km 同敷地内

◆ 鯨の門 B-3



時 間：9:30～20:00
定休日：年末 (12/29～12/31)
資料等整理期間
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

龍造寺氏の村中城を整備拡張した佐賀城の門。建設当初のものは残っておらず、1835年に起きた火災の際に再建されたものが、現存する鯨の門である。棟の両端に名称の由来となった青銅製の鯨が載っている。門戸には、1874年に江藤新平と島義勇を中心起こった「佐賀の役」時の弾痕がのこる。国指定重要文化財。



半日ものがたりモデルコース

◆ 神埼宿 C-3



櫛田宮の門前町を利用して街村を整備し旅籠など泊地としての構えを整えた長崎街道の宿場町。

約 9.5km 車で約 15 分

◆ 大隈重信旧宅 B-3



早稲田大学の創設者、そして2度にわたり総理大臣をつとめた大隈重信の生家。国指定史跡。

約 1km 車で約 5 分

◆ 佐賀城本丸歴史館 B-3



佐賀市城内の県史跡佐賀城跡に、幕末期の佐賀城本丸御殿の一部を忠実に復元した建物。2004年に開館。

◆ モデルコース以外の関連資源

- ◆ 鍋島家発祥の地 御館の森 (A-3)
- ◆ 高伝寺 (B-4) 🕒 P 🚻
- ◆ 十可苑 (B-2) 🕒 ¥ P 🚻
- ◆ 蛤水道 (C-1)
- ◆ 石井樋公園 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 本行寺 (B-3) P 🚻
- ◆ ひのはしら一里塚 (C-3)
- ◆ 旧城下町の道標 (B-3)
- ◆ 田手宿 (C-2)
- ◆ 目達原宿 (C-2)
- ◆ 長崎街道かんざき宿場まつり (C-3) 🕒
- ◆ のこぎり型家並み (B-3)
- ◆ 高麗人の墓碑・逆修碑 (B-2)
- ◆ 名尾手漉和紙 (B-2) 🕒 ¥ P 🚻
- ◆ 見島のカセドリ (C-3) 🕒
- ◆ 丸ぼうろ (B-3)
- ◆ 華蔵庵跡 (B-2)
- ◆ 葉隠発祥の地 (B-2)
- ◆ 龍雲寺 (B-3) P 🚻
- ◆ 松原神社 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 弘道館跡 (B-3) P
- ◆ 吉村家住宅 (A-1) P 🚻
- ◆ 野中島犀園 (B-3)
- ◆ 伊東玄朴旧宅 (C-2)
- ◆ 県病院好生館 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 神野公園 (B-3) P 🚻
- ◆ 築地反射路跡 (B-3) P
- ◆ 精練方跡 (B-3)
- ◆ アームストロング砲 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 護国神社 (B-3) P 🚻
- ◆ 春日墓所 (B-2)
- ◆ 来迎寺 (B-2) P 🚻
- ◆ 肥前ビードロ (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 山口家住宅 (B-4) 🕒 P 🚻
- ◆ 古島家綴通ミュージアム (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 旧古賀銀行神埼支店 (福成歯科医院) (C-3) P 🚻
- ◆ 龍泰寺 (B-3) P
- ◆ 徴古館 (B-3) 🕒 ¥ P 🚻
- ◆ 佐嘉神社 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 七賢人の石碑 (B-3) 🕒 P 🚻
- ◆ 筑後川昇開橋 (C-4) 🕒 P 🚻
- ◆ 佐野常民記念館跡 (B-4) 🕒 ¥ P 🚻
- ◆ 三重津海軍所跡 (B-4) P

悠久の恵みをもたらす川と平野と有明海

オンリーワンの水の郷

佐賀歴史ものがたり街道 4

原始	旧石器時代
	縄文時代
	弥生時代
古代	古墳時代
	飛鳥時代
	奈良時代
	平安時代
	鎌倉時代
中世	室町時代
	安土桃山時代
近世	江戸時代
	明治時代
近代	大正時代
	昭和時代
現代	平成時代

佐賀歴史ものがたり街道 4 佐賀の水をものがたる

北は背振山脈、東は九州一の大河「筑後川」、南は日本一の干満の差を持つ「有明海」に囲まれた低平で広大な佐賀平野は、その特異な地勢から、独自の環境や文化が生まれた地である。たとえば、有明海でムツゴロウやシオマネキが求愛行動を行う6月頃は、筑後川で日本に唯一生息しているエツ漁、秋はクリークでの菱の実収穫など、地域色豊かな風景が楽しめる。

また、有明海の干満の差による自然的な陸化と中世から江戸時代にかけて行われた干拓による農地と安定的な水供給を行う水利システムの構築など、私たちの生活を支えてきた先人の知恵が地域のいたる所に広がっている。ここでは、数千年前の原始より現代まで変わらず恵みを与えてくれる佐賀特有の水のさまざまな姿を発見する。

地域のできごと

縄文		▼有明海のカキの殻などが出土した貝塚がある東名遺跡がつけられる
弥生～古墳		
飛鳥	564年	▼嘉瀬川の守護神を祀る淀姫神社が創建される
平安	860年	▼雨乞いに霊験ある神と崇敬される金立神社が清和天皇から従五位下を賜る
鎌倉		
室町	1360年	▼この年の文書にクリークに囲まれた姉川城が初見される
	1521年	▼四周を堀で囲んだ水城的な形態の直島城が築城される
	1556年	▼雨乞いを祈願する浮立玄蕃一流がはじまる
安土桃山		
江戸	1615年	▼成富兵庫茂安の指導のもと、蛤水道が完成
	1623年	▼成富兵庫茂安の指導のもと、石井樋が完成
	1634年	▼成富兵庫茂安が死去、本行寺に埋葬される
	1635年	▼雲水によりそうめんの製法が伝えられ、神埼そうめんが盛んになる
	1850年	▼第10代佐賀藩主、鍋島直正が川の流れを動力に使う洋式反射炉の築造に着手
	1852年	▼鍋島直正が水力を動力とする精錬方を設置
	1858年	▼佐賀藩が三重津に「船手稽古所」を設置
明治	1868年	▼蓮池鍋島藩居城を蓮池公園として整備
	1900年	▼仁比山地区一帯に大水車群がつけられ、精米や製粉に利用される
	1908年	▼九州最初の水力発電所、広滝第一発電所が送電を開始
大正		
昭和	1935年	▼筑後川昇開橋が完成
	1947年	▼横武クリーク公園が開園
平成	1989年	▼クリークや川を身近に感じてもらうため、イベント「堀デーちよだ」を開始
	1992年	▼松原川の親水歩道が完成
	1993年	▼ふれあいクリーク公園が開園
	2000年	▼クリークを残したひょうたん島公園が開園
	2004年	▼有明海沿岸に干潟よか公園が開園
	2005年	▼三重津海軍所跡地を歴史公園として整備

土木の天才、加藤清正公も一目置いた成富兵庫茂安の水利システム

1615年の「大阪夏の陣」以降、徳川氏によって江戸幕府が開かれ、天下太平の世となった時代。古より広大な土地に田が開墾されていた佐賀平野は、山が浅く集水力に乏しい背振山地を背にしており、中小河川がいくつかあるものの水が決定的に足りない一方、台風や梅雨時の集中豪雨では一夜にして川が流れを変えるような地域であった。

江戸城の工事や大阪の陣等で異常なまでの財政危機に陥っていた佐賀藩を救うべく、ひとりの人物が活躍する。初代藩主・鍋島勝茂の家臣、鍋島藩家老『成富兵庫茂安』である。勝茂は、土地の開墾と治水による生産の向上を進言した成富兵庫に領国経営の一切を任せ、その手腕に期待した。

成富兵庫茂安の業績は細かいものまで合わせると100を越えるといわれるが、広大な佐賀平野を農地として活用するための水利システムは中小河川や原始クリークなどを巧妙に結び付け、平野全体で治水、利水、排水を処理するという一元化を図る驚くべき取り組みであり、第2次世界大戦の終戦直後に至るまでほとんど変わっていない。

そのひとつが脊振の蛤岳の山腹につくられた「蛤水道」である。多くの河川の水源となっている脊振山地から佐賀藩側に流れ込む水量は少なく、水不足に悩まされていたことから、水路を掘り、福岡側に流れる水を佐賀の田手川に導くという大工事を成功させた。

また、佐賀城下の生活用水や農業用水を安定的に確保するために独特の工夫を凝らし、嘉瀬川の流れを分水した「石井樋」は、2005年に公園として復元され、成富兵庫茂安の業績や佐賀平野と水などについて、ジオラマや映像で紹介する「さが水ものがたり館」や成富兵庫茂安を顕彰する記念碑がたてられている。

なお、新たに水路を開くなどの事業を進め、多くの原野を田畑へと変えた成富兵庫は、こうした整備だけでなく、上流下流、左岸右岸と広域的な調整を図り、村同士の利害の対立や、水利紛争を解決しながら、厳格な用水統制を敷いてきた。その功績は、江戸期を通じて、佐賀平野に目立った百姓一揆の記録はないこと、水争いの記録も少なく、あっても、役所へ届け出て、法の裁きによって解決している例が多いことなどから伺い知ることができる。

唯一無二の恵みと景観をもたらす有明海

ムツゴロウやガタリンピックで有名な有明海。潮汐の干満の差が日本一といわれるこの海は、大潮時には約6mに達する一方、最深部では20m程度と浅い内海であるため、干潮時には国内最大の広さをほこる干潟があらわれ

る。有明海の粘土質の泥は、阿蘇山の大噴火により堆積したもので、干潟は雨により河川を経て流出し、大きな潮差によって川に押し戻されたり、再び海に流されたりを繰り返し、河口付近に堆積して自然に陸化。また、中世より人間の手によって少しずつ干拓が進められ、江戸時代に入ると米の生産拡大を目的とした干拓が次々に行われるようになった。現在の佐賀県の沿岸部の平地は、ほとんどが干拓事業によって埋め立てられたもので、直線的な海岸線がその歴史を語っている。

また、有明海は干満の差に加えて流入河川が多いことから、有明海特有の生態系や景観をうんでおり、流入河川下流域ではアリアケヒメシラウオなどの固有種も生息。カニや貝類、ゴカイなどもすんでおり、川から流れ込む有機物や栄養塩類を食べて海水を浄化させている。

有明海の初夏はその独特の姿を楽しめる時期のひとつ。6月頃になると干潟ではオスのムツゴロウが盛んにジャンプを繰り返しメスに自分の存在をアピールする求愛行動のそばで、片方のハサミが大きいシオマネキのオスも大きい方のハサミを精いっぱい振りかざして、メスを誘う。また、筑後川では5月1日から7月20日までしか操業されないエツ漁の船が河口付近でエンジン音を響かせている。エツは、日本では有明海流域でしか確認されていない。晩秋には、自生した塩生植物のシチメンソウが色づいて干潟よか公園に赤い絨毯をつくり、冬の到来を告げてくれるのである。

先人の姿を映すクリーク

佐賀平野は日本屈指の稲作地域で、その自然的基盤として網状に発達したクリークがその母体となっている。クリークは俗に掘とも称し、佐賀平野の特殊景観を形成し、灌漑排水はもとより、第2次世界大戦前までは農民の日常生活上不可欠の用水源として重要案役割を果たしていた。

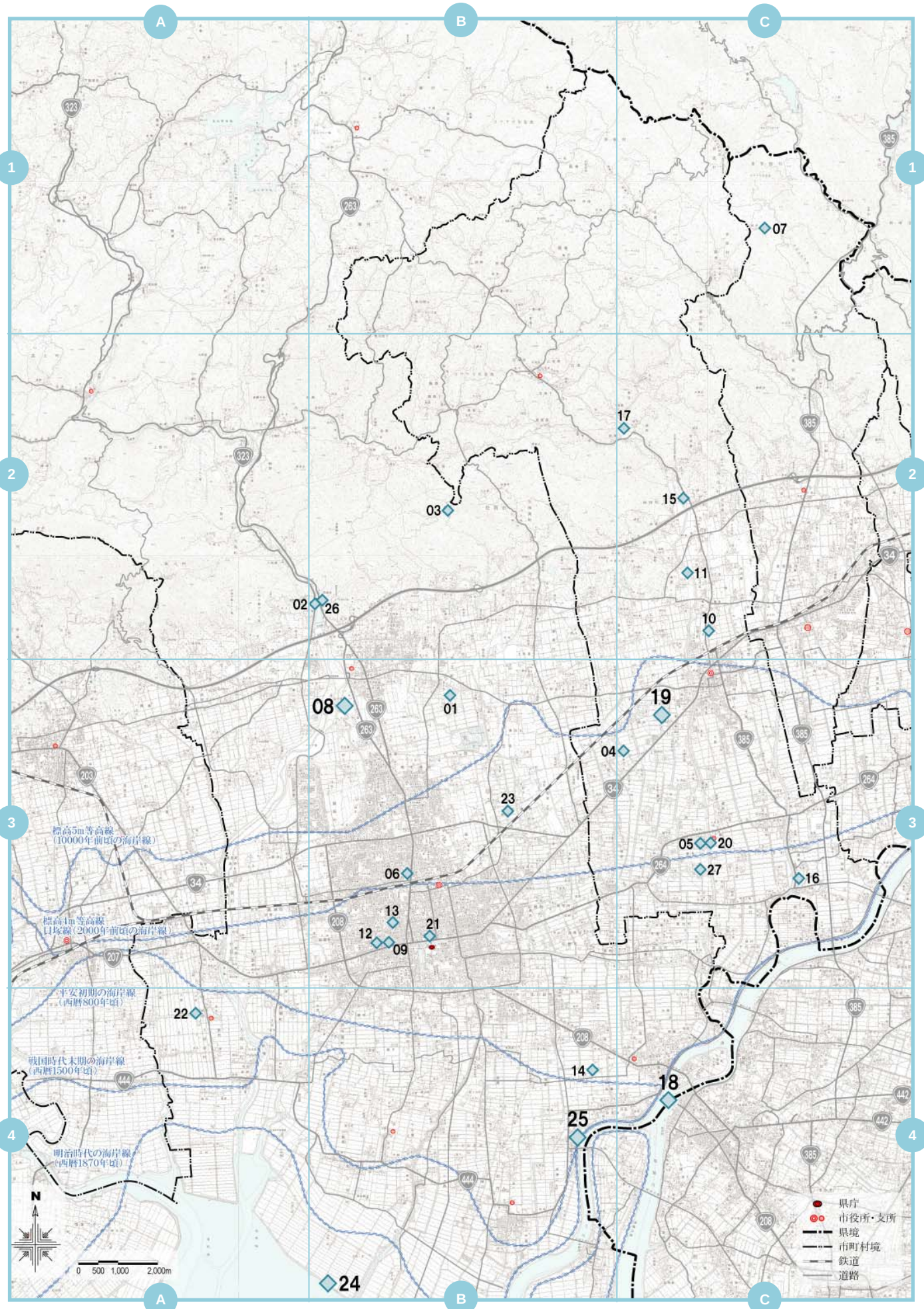
クリークには自然的なものとなつたものがある。人為的成因によるクリークは、干拓地の遊水池（潮遊び）として設けたものなどもあるが、大きく3つの特徴に分けられる。

平野の中部以北は古代の律令時代の開発に属し、大化の改新以後に灌漑排水用として開削されたエリアで統一的で整然としている。一方、平野中央部の東西に分布しているクリークは、中世豪族の館を中心として発達した豪族屋敷村の防盜防敵用として整備されたため、不整然なクリークとなっており、神埼市に残る姉川城址跡や直島城跡などがその様子を伺わせる。低平な佐賀平野においては、クリークはもっとも公的な防護手段であると同時に日用水源であった。また、近世以後は藩の統一的策定に基づき、平野南部に再び整然とした景観を呈する。

このように、佐賀平野におけるクリークは日本歴史のあゆみを反映し、人々の生活とは切っても切れない密接な関係を築いてきたのである。

1日ものがたりモデルコース

半日ものがたりモデルコース



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

横武クリーク公園 C-3

佐賀平野東部地区に特徴的に見られる農村景観であるクリークが発達した地を活用し、農業水利の保存、整備を行った公園。昔ながらのクリークがそのままに残された状態で整備されている。公園の中には、佐賀平野でしか見ることでできない「くど造り」の民家が復元されており、当時の農家の様子が再現されている。

約 9.5km 車で約 15 分



時 間：1000～1730
定休日：月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

石井樋公園 B-3

成富兵庫茂安の指導により、1623年に完成した、佐賀城下の生活用水と農業用水の取水施設。公園内には、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻、出鼻、石井樋、二ノ手堰などがあり、当時の石積みも数多く残っている。兵庫の業績や佐賀平野と水などについてジオラマや映像で紹介する「さが水ものがたり館」が隣接。

約 15.5km 車で約 25 分



時 間：9:00～16:00
定休日：月曜日（祝日の場合は翌日）
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

筑後川昇開橋 C-4

昭和 10 年に完成した世界有数の昇降式可動鉄橋。当時、頻繁に行き交っていた大型船の航行を妨げないように、中央部がエレベーターのように上昇し、その下を大型船が自在に航行できるようにになっている。昭和 62 年に鉄道橋としての役割を終えたが、平成 8 年に遊歩道として再生。国指定重要文化財。

約 2.5km 車で約 5 分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

三重津海軍所跡地 B-4

日本近代科学技術の源流といわれる「佐賀藩海軍所跡地」の遺構を顕在化した歴史公園として整備された。平成 17 年度完成。佐賀の七賢人の一人、佐野常民の遺徳を顕彰し博愛精神を学び普及していく施設、「佐野常民記念館」に隣接しており、記念館と一体となった佐野記念公園として多様な活用ができる。

約 11km 車で約 20 分



時 間：9:00～17:00
定休日：月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

千潟よか公園 B-4

有明海を臨む東与賀海岸沿いの有明海の千潟やシチメンソウなど豊かな自然を活用した公園。江戸時代後期のジョウゴ谷造りという屋根を持つ民家が再現されているほか、子どもから大人まで楽しめる大型遊具が充実。公園の展望台から眺める夕日は美しく、11月上旬にはシチメンソウが有明海岸を真っ赤に染め上げる。



横武クリーク公園 C-3

佐賀平野東部地区の特徴的農村景観であるクリークが発達した地を活用した公園。

約 12km 車で約 20 分



筑後川昇開橋 C-4

昭和 10 年完成の昇降式可動鉄橋。現在は遊歩道として活躍している。国指定重要文化財。

約 13.5km 車で約 25 分



千潟よか公園 B-4

有明海を臨む東与賀海岸沿いの有明海の千潟やシチメンソウなど豊かな自然を活用した公園。

◆モデルコース以外の関連資源

- ◆ 東名遺跡 (B-3)
縄文時代後期の中では西日本最大級の集落および貝塚遺跡。
- ◆ 与土日女神社 (B-2)
564 年創建と伝えられる嘉瀬川の守護神で町民の崇拝も篤い。
- ◆ 金立神社 (B-2)
江戸時代に雨乞いのある神として崇敬されていた。
- ◆ 姉川城跡 (C-3)
クリークに囲まれた農村景観を良好に残す中世の城跡跡。
- ◆ 直島城跡 (C-3)
四周を堀で囲み、縦横網目状に堀が廻る南北朝時代の城跡。
- ◆ 浮立玄蕃一流 (B-3)
雨乞い祈願で大宮司山本玄蕃が舞った浮立から始まった祭り。
- ◆ 蛤水道 (C-1)
筑前国へ流れる水を肥前国へ流すための人口水路。
- ◆ 本行寺 (B-3)
境内に治水事業の功労者、成富兵庫茂安の墓がある。
- ◆ 神埼そうめん (C-2)
春振山系の良質の水と佐賀平野が生む小麦を活かした製麺業。
- ◆ 三千石堰・横落水路 (C-2)
成富兵庫茂安が農業用水確保のために整備した水路。
- ◆ 築地反射路跡 (B-3)
日本で最初の洋西洋式反射炉。動力は水力を活用。
- ◆ 精錬方跡 (B-3)
佐賀藩の科学技術が集結していた地。川の流れを動力とした。
- ◆ 蓮池公園 (B-4)
旧蓮池鍋島五万石の居館のあった場所を公園にしたもの。
- ◆ 水車の里・遊学館 (C-2)
城原川の清流を利用した大水車群を再現した施設。
- ◆ 次郎の森公園 (C-3)
憩いの場、水と緑のあるふれあいの場として整備された公園。
- ◆ 広滝第一発電所 (C-2)
九州最初の発電所として活躍するレンガ色の洋館造りの建物。
- ◆ 堀デーちよだ (C-3)
クリークや川を身近に感じてもらうためのイベント。
- ◆ 松原川 (B-3)
ガス灯風の街灯や石畳の道などが整備された川沿いの遊歩道。
- ◆ ふれあいクリーク公園 (A-4)
クリーク等の歴史や風土を振り返り、水に親しむための公園。
- ◆ ひょうたん島公園 (B-3)
クリークの形をそのままに残した公園。
- ◆ 川上峽 (B-2)
別名九州の嵐山と言われる憩いの場所。
- ◆ 菱の実とり (C-3)
クリークで栽培している菱をハンギーに乗って収穫する秋の風物詩。

地図・アイコンの見方

- ◆ 資源の位置
- 01 資源番号（資源紹介の番号と対応）
- A-1 地図上の概ねの位置
- 定休日等見学時間や季節に制限がある施設
- 料金の必要な施設
- 駐車場の有る施設
- トイレの有る施設

日本茶文化でなごみのひととき

喫茶文化のはじまり

佐賀歴史ものがたり街道 5

原始	旧石器時代
	縄文時代
	弥生時代
古代	古墳時代
	飛鳥時代
	奈良時代
	平安時代
中世	鎌倉時代
	室町時代
近世	安土桃山時代
	江戸時代
近代	明治時代
	大正時代
現代	昭和時代
	平成時代

佐賀歴史ものがたり街道 5
佐賀のお茶をものがたる

「お茶でもどうぞ」「お茶を飲んで休憩しよう」
日本人ならば、そういわれたこと、思ったことが一度はあるはず。日本人にとってお茶は“おもてなし”であり“癒し”。生活に欠かせない飲み物なのである。
日本へお茶が最初に伝来したのは平安時代だが、日本茶として栽培がはじまったのは鎌倉時代。中国への留学僧、栄西が万病の薬、禅宗の修行・行事に不可欠な飲み物として種を持ち帰り、背振山で栽培したのが最初である。
また、佐賀出身の僧、高遊外壳茶翁は、京で茶店を開き、当時身分の高い人の飲み物であった煎茶を庶民の文化として広めたといわれている。
ここでは、私たちの日常生活に深く浸透している日本茶の普及にまつわるルーツをたどる。

地域のできごと

飛鳥	709年	▼元明天皇の勅願寺として背振山に山岳仏教の中心地、霊仙寺が開山され、背振山頂上を上宮、中腹にある霊仙寺一帯を中宮、山の麓にある修学院を下宮とする
奈良		
平安	1187年	▼栄西禅師が南宋に留学し、禅の修行に必要なお茶を学び、その効力を知る
	1191年	▼栄西禅師が帰国、霊仙寺西の谷の石上坊の庭に茶の種をまき、茶の製法を伝える
鎌倉	1214年	▼栄西禅師が将軍、源実朝に茶とともに喫茶養生記を献上する
	1215年	▼栄西禅師、死去
室町		
安土桃山	1600年	▼佐賀藩祖、鍋島直茂が中世の戦乱で荒廃が進んでいた修学院を再興する
江戸	1675年	▼蓮池鍋島藩の御殿医であった柴山家の3男として、煎茶の中興の祖、高遊外壳茶翁が生まれる
	1683年	▼高遊外壳茶翁が出家して、龍津寺で禅を学ぶ
	1736年	▼高遊外壳茶翁が京都鴨川のほとりに「通仙亭」という茶店を構え、茶道具を入れた荷物を自ら背負って、茶を売り歩くなど、煎茶を売る生活をはじめる
	1756年	▼高遊外壳茶翁、売茶業を廃業、愛用の茶道具も焼却
	1763年	▼高遊外壳茶翁、死去
	1852年	▼第10代佐賀藩主、鍋島直正が霊仙寺乙護法堂を建立

仏教の教えとともに伝来した喫茶文化

お茶が中国から日本へ最初に伝来したのは、平安時代のはじめ、8～9世紀のこと。遣唐使として渡った最澄や空海ら留学僧が、寺院で飲まれていた餅茶（茶葉を蒸して搗き固めたもの）を日本へと伝え、寺院や宮廷で飲まれたが、その後国風文化に押され衰退。そのため、1191年に再び栄西禅師が宋から茶の種子を持ち帰ったのが、日本茶のはじまりと言われている。

栄西禅師は当時脊振千坊とも呼ばれ、九州の山岳仏教の聖地となっていた脊振山麓（現在の佐賀県神埼郡吉野ヶ里町）に茶の種子を蒔くとともに、京都梅尾高山寺の僧、明恵に茶の種を贈り、抹茶の喫茶法を日本に紹介したと伝えられている。京都梅尾高山寺から宇治茶がうまれたともいわれており、脊振から茶種を取り寄せ、不動山に蒔いたことから栽培が盛んになった嬉野茶とそのルーツを同じくしている。

また、栄西禅師は鎌倉幕府第三代将軍源実朝に、二日酔いの薬として抹茶を献上し、さらに、眠気を覚まし瞑想の助けとなる禅宗の修行の薬として、その功德を説いた『喫茶養生記』を著した。実朝が茶の効用に大いに感嘆し、その普及をうながしたことから、寺院や武家の間に次第に抹茶が広まっていったのである。

やがてさまざまな薬効のあるお茶はその後、寺院の門前などで参詣に訪れる人々に売られるようになり、施薬の茶として人々に普及。戦国時代になると、茶は禅の思想と深く結びついた侘び茶のスタイルが形成されるようになり、茶頭と呼ばれる人々は多く禅宗に帰依し、法名を名乗るなど世俗を離れた存在となった。

その伝来から仏教と密接な関係を持ったお茶は、庶民に広まった現在でも、仏前に茶湯とよばれるお茶が供えられたり、仏事の返礼としてお茶が用いられるなど、仏教儀礼の中にお茶は深く根付いている。

葬儀のお返し物の代名詞であるお茶。万病の薬として伝えられたお茶は、僧侶たちが毎日仏壇に健康を守ってくれる感謝の気持ちとしてお茶のお供えをしていた献茶の習慣が日本の上流階級から一般庶民にまで広まっていったことから「仏事にはお茶」という習慣が定着したといわれている。

また、お茶が境界を区切る象徴的な意味をもっていることとも関係がある。
仏教では人が亡くなり、この世からあの世へと旅立つ、その境を超えることがお茶を飲むことで示されると考えられている。本来はその場でお茶を飲んでもらうという意味であったが、現在では葬式でお茶を配ることで故人との別れを確かなものにするという意味が込められているのである。

そのほか、知人や友人などが家を訪れた時、おもてなしとしてお茶を出し、家への受け入れを表すが、これもこの区切るという意味から、お茶を飲むことである境を超えたことを示す事例のひとつである。

喫茶の風習を庶民へ広めた高遊外壳茶翁

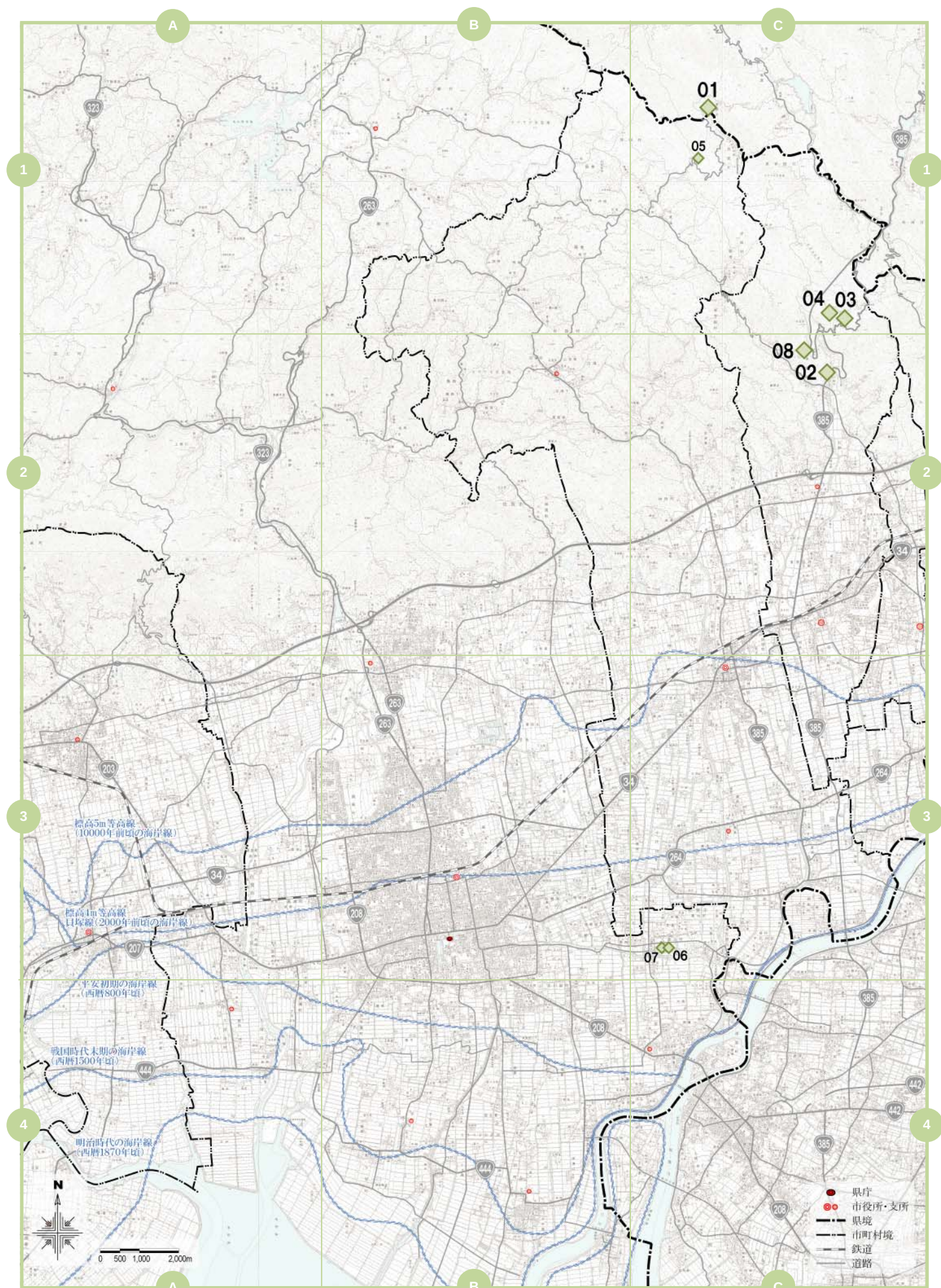
江戸時代にはいると、新たな茶葉の飲用法がもたらされた。日本に来朝した隠元禅師が明の喫茶法、煎茶を伝え、煎茶の祖として仰がれるようになったのである。現在、日常生活に深く浸透している煎茶だが、当時は身分の高い人々の飲み物で、喫茶の風習は上流階級の文化であった。その高級なイメージを払い、庶民へ煎茶の喫茶文化を広めた人物こそが、茶道の千利休と相並び、煎茶道の祖と仰がれる「高遊外壳茶翁」である。

肥前蓮池で生まれた売茶翁は、1675年、蓮池鍋島藩の御殿医、柴山家の三男、柴山元昭として育つ。11歳で出家後、厳しい修行を行っていたが、57歳で突如上京、61歳の時に京都鴨川のほとりに「通仙亭」という茶店を構えて売茶の業を始めた。売茶翁は茶道具を入れた荷物を自ら背負って、茶を売り歩くことも多く、風光明媚な場所にでかけては、茶代は求めず、禅を説きながら茶を煎じて飲ませ、煎茶を風流な趣味芸道にまで高め、煎茶道を確立させたといわれている。

なお、「茶道記」という本にも、京都の宇治で永谷宗円がはじめて造った日本独自の蒸し製煎茶「玉露茶」を世にひろめた人は売茶翁こと柴山元昭と書かれている。

また、売茶翁が売茶をはじめた時代は太平の世となった江戸時代中期。煎茶を通して禅の道や人の道、生き方をも示す売茶翁の活動は、多くの知識人や芸術家に影響を与え、いつしか「売茶翁に一服接待されなければ一流の風流人とはいえぬ」とまで言われた。売茶翁の人柄は、池大雅や与謝蕪村などの文人墨客たちが売茶翁の肖像画を描いていることからうかがい知ることができる。なお、江戸時代を代表する有名画家、伊藤若冲の「売茶翁画像」は現在、宮内庁に収められている。

高遊外壳茶翁が生誕してから330年をすぎた。佐賀市蓮池町には、売茶翁生誕の家ともいわれている旧柴山家住宅が移築・改築されながらも、現存している。また、売茶翁が出家し、修行した龍津寺はお堂が焼失し、小さな庵を残すのみだが、敷地内には売茶翁を顕彰する碑が建てられ、ゆかりの柴山家の墓も安置されている。



地図・
アイコン
の見方

◆ 資源の位置
01 資源番号（資源紹介の番号と対応）

A-1 地図上の
概ねの位置

🕒 定休日等見学時間や
季節に制限がある施設

¥ 料金の
必要な施設

P 駐車場が
ある施設

🚻 トイレが
ある施設

1日ものがりモデルコース



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：あり

◆ 背振山 C-1

佐賀県と福岡県の県境に位置する標高1,055m、脊振山系最高峰の山。古くは多くの修行僧が暮らしていて、その痕跡が多数みられる。霊仙寺よりしばらく歩いた、佐賀県側の西にはサザンカの自生北限地があり群生している。航空自衛隊に移管の脊振山分屯基地や警察庁、新聞社の通信施設がある。



約3.5km 車で約10分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：なし
トイレ：なし

◆ 西の谷の石上坊の庭 C-1

1191年、宋より帰朝した栄西禅師が持ち帰った茶の種を蒔いたといわれている庭。あわせて茶の製法を伝えたことから「日本茶樹栽培発祥の地」と言われている。

約13km 車で約20分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

◆ 霊仙寺乙護法堂 C-1

709年、元明天皇の勅願寺として湛譽上人が開山したと伝えられている。平安時代から中世にかけて山岳仏教の中心であった。幾多の名僧が修行し、九州でも山岳仏教の聖地として代表的な寺で、脊振千坊と称されるほどの隆盛を誇っていたが、現在では江戸時代末期に建立された乙護法堂を残すのみとなった。



約2km 車で約5分



時 間：10月～12月
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：なし
トイレ：なし

◆ サザンカ自生北限地帯 C-2

千石山の標高約200メートルの南斜面に、2.9ヘクタールの純林を形成している、根回り1メートル、高さ10メートルに及ぶサザンカの巨木が林立している自生北限地。開花期である晩秋に、雪を思わせる白い花が咲き誇り、冬の訪れを予感させる風物詩となっている。国指定天然記念物。



約22km 車で約35分



時 間：見学自由
定休日：なし
料 金：無料
駐車場：あり
トイレ：なし

◆ 坂本修学院 C-2

1596年頃、佐賀藩主鍋島直茂公の命により再興された、天台宗の由緒ある寺。幕末から明治中期にかけての茶の記録「石上茶話」（栄西が石上坊前庭で茶を栽培したことから脊振茶を「石上茶」と呼ぶようになった）を保存している。桜としゃくなげの名所としても有名。



半日ものがりモデルコース



◆ 背振山 C-1

佐賀県と福岡県の県境に位置する標高1,055m、脊振山系最高峰の山。

約16km 車で約25分



◆ 霊仙寺乙護法堂 C-1

元明天皇の勅願寺として湛譽上人が開山したと伝えられている霊仙寺に江戸時代末期に建立されたお堂。

約23km 車で約35分



◆ 坂本修学院 C-2

1596年頃、佐賀藩主鍋島直茂公の命により再興された、天台宗の由緒ある寺。「石上茶話」を保存している。

◆ モデルコース以外の関連資源

◆ 栄西記念像（茶祖）（C-1）

栄西禅師が鎌倉時代に初めて宋の国、江南の茶種を持ち帰って脊振山に植えた功績を讃える像が設置されている。

◆ 旧柴山家住宅（C-3）

煎茶を庶民に広げた高遊外売茶翁の生家といわれる家。

◆ 龍津寺（C-3）

煎茶を庶民に広げた高遊外売茶翁の出家寺。お堂が焼失し、小さな庵を残すのみだが、敷地内には高遊外売茶翁顕彰碑がたち、高遊外売茶翁ゆかりの柴山家の墓もある。

◆ 嬉野の大茶樹（佐賀県嬉野町）

推定樹齢350年の日本最古樹齢のお茶の木。嬉野の茶業発展に努めた吉村新兵衛が植えたとも伝えられる。

◆ 嬉野茶（佐賀県嬉野町）

脊振から茶種を取り寄せ、不動山に蒔いたことから栽培が盛んになった。明から渡来した陶工・紅令民が南京釜を持ち込み「釜入り茶」の製法を日本に伝授した地といわれている。

3. 活用が想定される補助事業等

佐賀歴史ものがたり街道（仮称）基本方針（案）に示している想定される施策メニュー（案）の実現に向けて活用が想定される国の補助事業等は以下の項目が考えられます。

	概要	所管	交付率/ 補助内容
観光圏整備事業 補助制度	国内外観光客の2泊3日以上滞留型観光を促進するため、地方公共団体や関係団体・企業等をはじめとする関係者が連携し、民間組織の創意工夫を活かした取り組みを観光圏整備事業として総合的かつ一体的に支援。	国土交通省 （観光庁）	40% （5ヶ年）
観光地域づくり 実践プラン （観光ルネサンス事業）	地域特性を踏まえた観光戦略に基づき、観光を軸とした地域の幅広い関係者が連携した地域づくり（観光地域づくり）の取組を推進する必要があることから、ハード・ソフト一体となった計画に対して、国の所管の施策や事業により支援。	国土交通省	国土交通省による 総合的な支援 （5ヶ年）
観光ルネサンス 補助制度 （観光ルネサンス事業）	外国人観光客の来訪を促進し、国際競争力のある観光地づくりを目指すため、地域で観光振興に取り組む民間組織（ATA）の創意工夫のある地域観光振興事業に対して支援。	国土交通省 （観光庁）	40% （最大2カ年）
地方の元気再生事業	持続可能な地方再生の取組を抜本的に進めるため、地域住民や団体の発意を受け、地域主体の様々な取組を立ち上がり段階から包括的・総合的に支援。	内閣府	100% （最大2カ年）
まちめぐりナビ プロジェクト	観光客への情報提供の高度化による移動支援の先進的な事例をつくるために、公募によるプロジェクトを実験的に実施するための支援。	国土交通省	国と地方公共団体等 が適切に役割・費用を 分担
地方道路整備 臨時交付金 （地方道路交付金事業）	国と地方の限りある財源を有効に活用する観点から、事後的に評価する成果の事後評価と地方の自由裁量（目標達成に必要な要素事業に要する費用をパッケージごとに配分）をセットにした支援。	国土交通省	国費の割合については、 関係する道路管理者が 協議により定める
道整備交付金 （地域再生基盤強化 交付金）	地方の自主性、裁量性を高めるための補助金改革と地域再生の観点から創設された地域再生基盤強化交付金のうち、地域の重要なインフラである道路・農道・林道の一体的整備により地域再生を図るための支援。	内閣府 農林水産省 国土交通省 環境省	対象事業ごとに現行 の補助事業における 補助率、補助対象範囲 の規定に基づき計算 した額を合計し算定
地域再生を担う 人づくり支援調査	地域の活性化は、住民や団体が主体となって、自らイニシアティブを発揮し、プランを描き、取り組むことが基本であるとの認識のもと、地域自らが考え、実行できる体制を強化するため、集中的に研修会、実証実験等を実施し、地域づくりの核となる担い手の育成を積極的に推進するための支援。	国土交通省	調査請負金額100 万～250万円程度 リーダー研修会の開 催
地域振興 アドバイザー	地域の活性化・交流を促進するために、様々な課題を抱えている市町村へ各分野の専門家を派遣して、その専門家から助言をってもらうことにより、自主的な地域づくり活動等を側面から支援し、もって地域の活性化に資するための支援。	国土交通省	各回の旅費及び第1 回目についての謝金 を国土交通省が負担

4. 基本方針（案）の検討体制と検討の経緯

佐賀歴史ものがたり街道（仮称）基本方針（案）の検討にあたっては、観光客の皆さんを対象としたアンケート調査や、観光事業者の方々などへのヒアリング調査など、各種実態調査により地域の観光の現状を把握・分析するとともに、地域の活動団体にご参加いただいた「地域活動団体連絡会」、観光協会・観光事業者・行政の方々にご参加いただいた「検討会」を開催し、意見交換を実施しつつ、とりまとめを行っています。

■検討の経緯



■検討体制

▼地域活動団体連絡会 参加団体一覧

	主な活動エリア	活動目的等
特定非営利法人 活気会	佐賀市	市民・NPO・企業の方々に対して、市街地などの地域を居住、観光、学習、企業活動の場とするための環境づくりを行い、現実には様々な地域活動を誘発させることによって、活気ある地域づくりを進めることを目的とする。
特定非営利法人 みなくるSAGA	佐賀市	佐賀市及びその周辺のもつ観光素材に対して、調査発掘と提案並びに既存事業のサポートに関する事業を行い、観光客の誘致増加に寄与するまちづくりを目的とする。
「鳳凰の里」弥生 復活支援グループ	神崎市	地域の人みんなが本当に賛同して楽しみながらできる地域復興を目指す。
神埼歴史街道の会	神崎市	お客のレベルにあわせて神埼の案内ができるガイドを育成し、街道に訪れる観光客に満足してもらい、ひいては観光客を増加させ、地域を活性化させることを目的とする。
特定非営利法人 弥生吉野ヶ里	吉野ヶ里町	町おこしの重要性を理解する会員相互の協力により、地域市民、地域及び団体に対して、公共および観光に関する事業を行い、地域づくり等に関する活動を通して平和で豊かな社会をつくるために寄与することを目的とする。 また、吉野ヶ里歴史公園を中心とした回遊性を高めるとともに、活動の中で成功事例をつくる「種まき」を行い、他の活動の見本となることを目指す。
地域おこしグループ さざんか塾	吉野ヶ里町	10年・50年・100年先を見据えた感性と、地球規模で考え取り組む。行動は常に足元を見つめ、地に着いた活動を心がけている。 ■基本理念 「いろいろ考えるより 先ずやってみよう “本気を出せば何でもやれる”」

※順不同

▼検討会 メンバー一覧

	所属	役職・氏名
2市1町 観光関連部局	佐賀市経済部観光振興課	主事 小野健司
	神崎市産業建設部商工観光課	執行真知子
	吉野ヶ里町商工観光課	課長 米倉幸弘
2市1町 観光協会等	社団法人佐賀観光協会	主任 中村真治朗
	神埼町観光協会	(神崎市と同様)
	脊振町観光協会	会長 大澤一士
観光事業者	株式会社日本旅行佐賀支店	支店長 吉田健二
	有限会社川副タクシー	代表取締役社長 内田清己
	有限会社神埼タクシー	竹下千鶴
	吉野ヶ里観光タクシー有限会社	営業部長 吉野啓 所長 西久保忠良

※敬称略・順不同

